令和４・５年度　鹿児島県社会教育委員の会議　審議のまとめ

地域における家庭教育支援の推進
～「親子の育ち」を支えるために～

令和６年２月

鹿児島県社会教育委員の会議

目　次

１　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２　審議のテーマ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

３　テーマ設定の理由　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
⑴　鹿児島県教育大綱から　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
⑵　鹿児島県教育振興基本計画から　・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
⑶　「こども基本法」（令和５年４月施行）から　・・・・・・・・・・・ 2
⑷　「令和３年度家庭教育の総合的推進に関する調査研究～『家庭教育』に関する国民の意識調査～」（文部科学省）から　・・・・・・・・・・・ 2

４　家庭教育の現状と地域に求められる家庭教育支援について　・・・・・・ 4
⑴　家庭教育の現状　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
⑵　地域に求められる家庭教育支援　・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

５　地域における家庭教育支援の推進のための方策（提言）　・・・・・・・・ 10
提言１　保護者の学びや交流の場づくり　・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
提言２　教育・福祉・医療等の関係機関，団体，企業等の連携・協働　・・ 10
提言３　家庭教育推進のための地域協力体制づくり　・・・・・・・・・・ 11

６　これまでの審議の経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

７　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

◇　参考事例：市町村・支援センター・ＮＰＯ法人等の取組
⑴　姶良市教育委員会社会教育課　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
⑵　霧島市教育委員会社会教育課　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
⑶　徳之島町教育委員会社会教育課　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
⑷　さつま町子ども支援課　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
⑸　鹿児島市東部親子つどいの広場　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
⑹　日置市吉利保育園内子育て支援センターＹＯＵ・ゆう　・・・・・・・・ 19
⑺　ＮＰＯ法人いぶすき子育てサポートセンターＬＵＡＮＡ（指宿市）　・・ 20
⑻　曽於市すえよし子育て支援センター　・・・・・・・・・・・・・・・ 21
⑼　ＮＰＯ法人子育てふれあいグループ自然花（枕崎市）　・・・・・・・・ 21

◇　資料編
○　家庭教育に関するアンケート　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
○　家庭教育支援に関するアンケート　・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

◇　鹿児島県社会教育委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

1　はじめに

今期（令和４・５年度）の鹿児島県社会教育委員の会議に対し，県教育委員会から審議のテーマとして，「地域における家庭教育支援の推進～『親子の育ち』を支えるために～」が示された。

県教育委員会からのテーマ設定の理由については後述するが，現在，家族構成の変化や地域における人間関係の希薄化の影響を受けて，家庭教育に関して身近に相談できる相手を見つけることが難しいという孤立の傾向や，家庭教育に関する多くの情報の中から適切な情報を取捨選択する難しさなど，かえって悩みを深めてしまう家庭教育の孤立化・複雑化が指摘されている。こうした傾向はコロナ禍の中で更に深まり，単に家庭内の努力だけで解決できるものではなくなっている。

そのような中で，家庭教育支援の重要性が増しているが，その際，特に強調されなくてはならないのは，家庭教育における親の自覚・責任を求めるような家庭教育支援ではなく，家庭教育の困難な社会構造の中で，親子の自らの育ちを培う視点での家庭教育を地域でどのように支援していくかが課題となっているということである。とりわけ鹿児島県では，核家族が多く，３世代家族が少ない。また，子供の貧困率が高く，児童虐待が増加している。しかし，他方では，学校行事・地域行事への参加率はとても高い状況である。

そこで，当会議は２年間の審議を深めるために，まずテーマの設定理由を踏まえた審議の視点を設定し，家庭教育と家庭教育支援の現状を把握する項目等の検討を行い，アンケートを実施した。さらに，家庭教育支援に関する具体的な実践等について情報を得るために，関係機関への聞き取りによる追跡調査を実施した。それらの調査をもとに，審議を重ねた。

2　審議のテーマ

地域における家庭教育支援の推進 ～「親子の育ち」を支えるために～

3　テーマ設定の理由

県教育委員会から，テーマ設定の理由として，　次の４点が説明された。

⑴　鹿児島県教育大綱から

平成 31 年２月にまとめられた「鹿児島県教育大綱」に，本県には，教育を大事にする伝統や精神，風土があり，豊かな自然，日本の近代化をリードした歴史，地域に根ざした個性あふれる文化，全国に誇れる農林水産業等の産業，様々な分野で活躍している人材など教育的資源が豊富であり，また，地域全体で子供たちを育てるという伝統的な地域の教育力も残っていることから，これらを有効活用して施策を推進することが示されている。

さらに，学校，家庭，地域，企業等それぞれの教育における役割を確実に果たすとともに，積極的に他に働きかけて成果を増幅させるなど，それぞれとの連携や協働を図ることとしている。

⑵　鹿児島県教育振興基本計画から

鹿児島県教育振興基本計画では，地域全体で子供を守り育てる環境づくりを推進するための方向性として，「家庭教育の自主性を尊重しつつ，地域ぐるみで子育てを支援する基盤の整備」，「学習機会の提供や相談体制の整備及び家庭教育に関する情報提供」，「市町村，学校・福祉機関，企業等と連携した家庭教育支援の推進」を掲げ，家庭の教育力の向上を図ることを示している。

⑶　「こども基本法」（令和５年４月施行）から

子供が将来にわたって，幸せな生活ができる社会を実現するための「こども基本法」に，父母その他保護者に対しての支援が明記されている。

> 第三条
>
> 一　全てのこどもについて，個人として尊重され，その基本的人権が保障されるとともに，差別的取扱いを受けることがないようにすること。
>
> 五　こどもの養育については，家庭を基本として行われ，父母その他の保護者が第一義的責任を有するとの認識の下，これらの者に対してこどもの養育に関し十分な支援を行うとともに，家庭での養育が困難なこどもにはできる限り家庭と同様の養育環境を確保することにより，こどもが心身ともに健やかに育成されるようにすること。

⑷　「令和３年度家庭教育の総合的推進に関する調査研究～『家庭教育』に関する国民の意識調査～」（文部科学省）から

令和４年２月に文部科学省が，「家庭教育（支援）」に対する国民の意識を調査し，これまでの施策が現在どのように普及し活用されているかを評価・分析し，今後の効果的な支援方策の検討材料を得るために，全国の 20～69 歳男女を対象にインターネット調査を実施した「令和３年度家庭教育の総合的推進に関する調査研究～『家庭教育』に関する国民の意識調査～」の調査結果報告書に次のような問いと回答がある。

> 【問い】
>
> あなたはお子様への「家庭教育」について自信はありますか。※現在お子様がいらっしゃらない方についても，子育てを行うことを仮定とした場合についてご回答ください。
>
> 【単一回答】
>
> ○　自信がある（7.0%）　　○　やや自信がある（28.4%）
>
> ○　あまり自信がない（37.8%）　　○　自信がない（26.8%）

【問い】
　あなたが「家庭教育支援」で期待する，または強化すべきと思う取組はありますか。ご自由にご記入ください。

【自由記述回答　（一部抜粋）】
○　相談できる人や場所　　○　地域や周囲からの支援
○　親にも学びの機会　　○　親へのケア
○　ネットやスマホなど現代的の課題への対応

【問い】
　あなたは行政（国・自治体）が実施した「家庭教育支援」に関する取組をどの程度ご存じですか。

【各単一回答】
■どんなことをするのかまで知っている □名前は聞いたことある ◆知らない
①家庭教育に関する相談窓口の設置（■4.8% □15.4% ◆79.7%）
②家庭教育に関する講座の設置（■4.0% □11.6% ◆84.4%）
③家庭教育に関する保護者への訪問型支援の実施(■4.3% □12.2% ◆83.5%)
④子どもの生活習慣に関するパンフレットの作成(■4.5% □11.7% ◆83.9%)
⑤家庭教育手帳の作成（■3.4% □9.1% ◆87.5%）

　このアンケートから,「家庭教育」を行うことに「あまり自信がない」・「自信がない」が 64.6%と高く，相談できる人や場所，地域の支援や学びの機会等を求めていることが分かる。しかし，現在，国や自治体が行っている「家庭教育支援」の取組に関する情報は，あまり周知されていない状況にある。

　上記のことから，家庭教育の自主性を尊重しつつ，家庭の教育力を高めるため，地域ぐるみで子育てを支援する「地域における家庭教育支援の推進」について，提言をまとめたい。

４　家庭教育の現状と地域に求められる家庭教育支援について

県内全域の幼稚園児・小学校児童・中学校生徒の保護者（1,608 人）を対象に「家庭教育に関するアンケート調査」を，市町村家庭教育支援担当者・子育て支援センター・ＮＰＯ法人等で家庭教育支援（子育て支援）従事者（282 件）を対象に「家庭教育支援に関するアンケート調査」を実施した。（調査期間：令和４年 12 月 12 日～12 月 28 日）

その結果が，以下のとおりである。

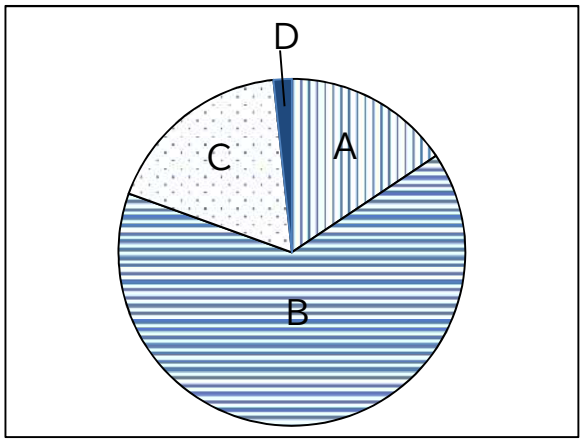
⑴　家庭教育の現状（資料編 23 ページ：家庭教育に関するアンケートから）

※　対象：子育て中の保護者

Ｑ３：子育てをしていて，悩みや不安を感じますか。

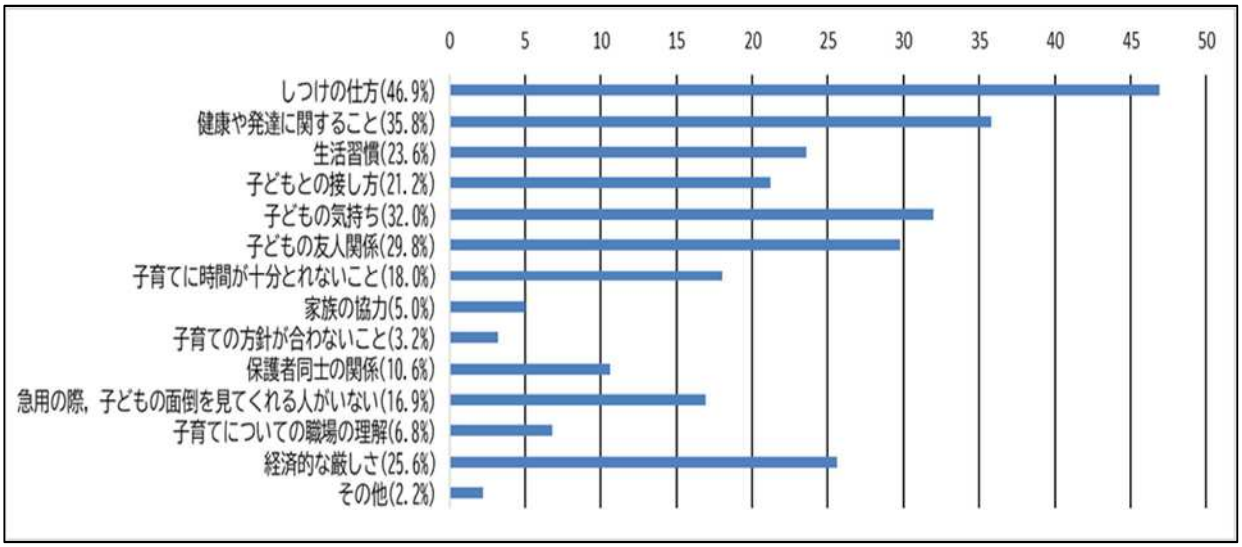
【%】

Ａ：いつも感じる	15.6%
Ｂ：たまに感じる	64.9%
Ｃ：あまり感じない	17.8%
Ｄ：まったく感じない	1.7%



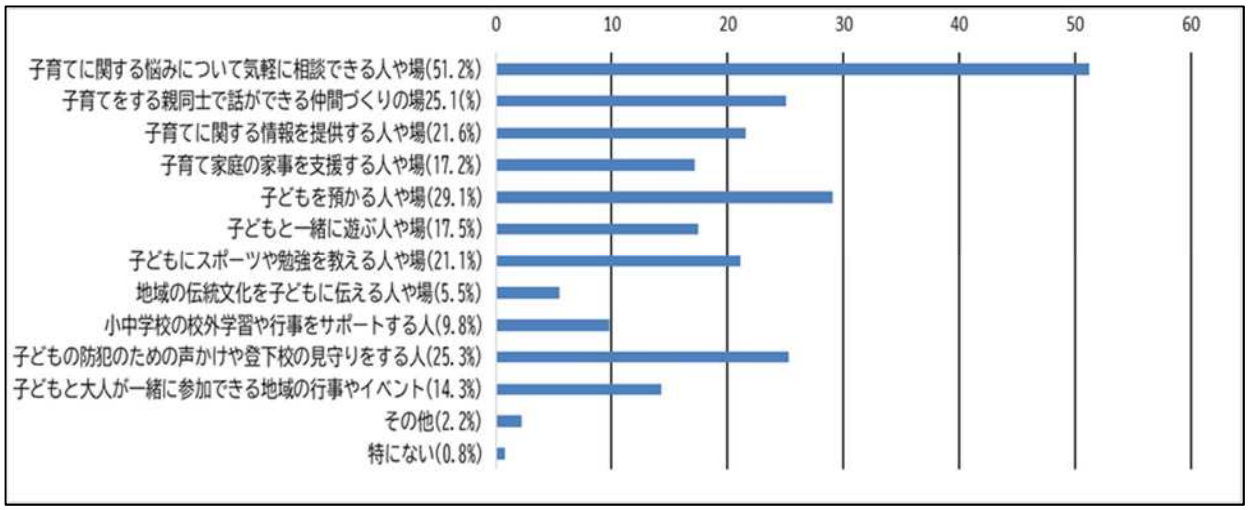
Ｑ４：「いつも感じる」，「たまに感じる」と回答した人へ，どのような悩みや不安を感じますか。あてはまる回答を３つ選んでください。

【%】



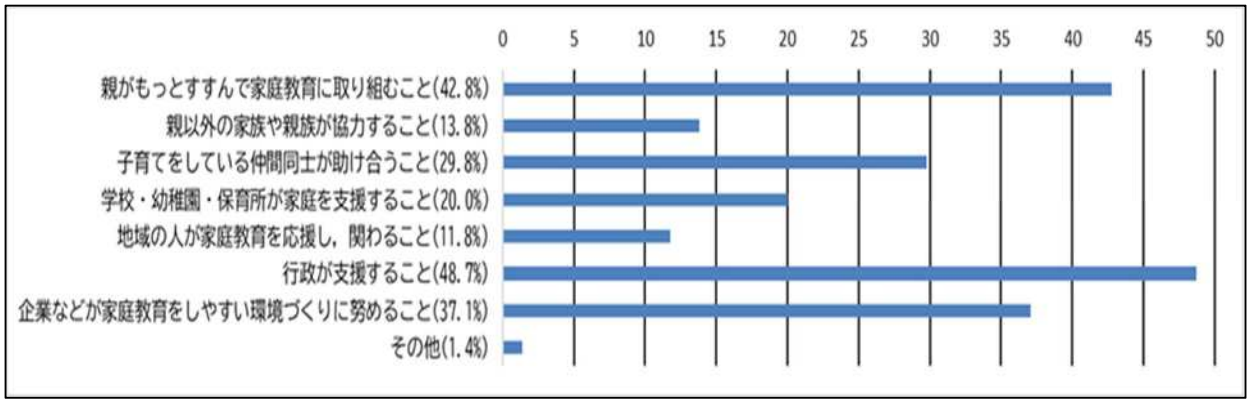
Ｑ７：あなたは，地域で子育てを支えるために，どんな人や場が必要だと思いますか。あてはまる回答を最大３つまで選んでください。

【%】



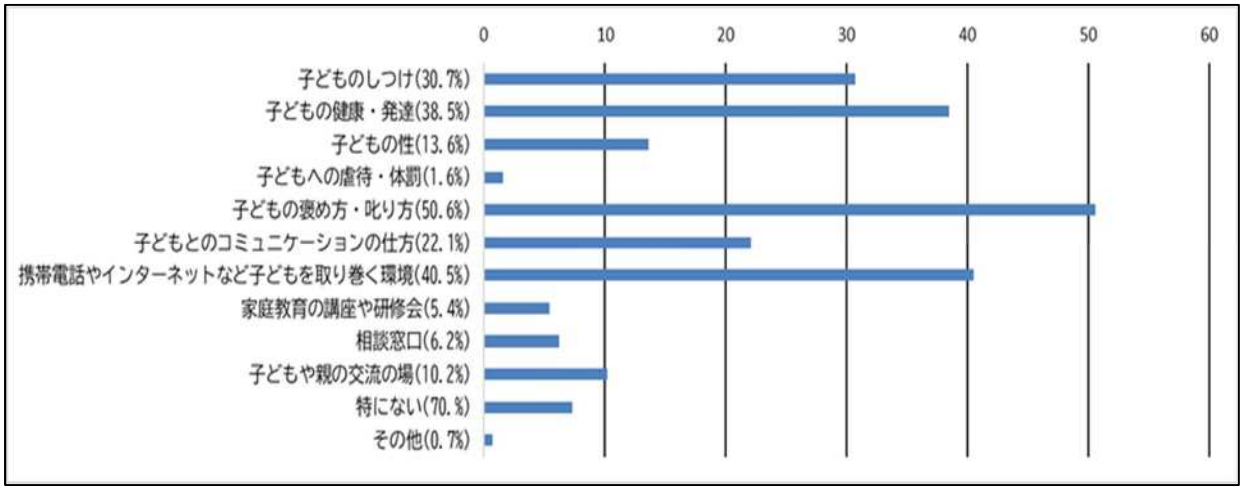
Ｑ８：あなたは，家庭教育の充実のために，どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる回答を３つまで選んでください。

【%】



Ｑ９：あなたは，家庭教育についてどのような情報を知りたいですか。あてはまる回答を３つまで選んでください。

【%】



Ｑ３から，悩みや不安を「いつも感じる」,「たまに感じる」が80.5%となっており，ほとんどの保護者が悩みや不安を感じながら，子育てをしていることが分かる。その内容は，Ｑ４から,「しつけの仕方」が46.9%で最も多く，次いで「健康や発達に関すること」,「子どもの気持ち」,「子どもの友人関係」の順になっている。併せて，Ｑ９にあるように，保護者の知りたい情報として「子どもの褒め方・叱り方」,「子どもの健康・発達」,「子どものしつけ」が上位にある。そのほか「携帯電話やインターネットなど子どもを取り巻く環境」についても40.5%と多く，保護者は子どもの心や健康・発達，しつけ，子どもを取り巻く環境等についての学習機会を求めているのではないか，と考えられる。

Ｑ７から，地域で子育てを支えるために必要なこととして,「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場」が51.2%,「子育てをする親同士の仲間づくりの場」が25.1%であることから，身近に相談できる人や同じ立場の人と語り合える場があることが，安心して子育てができる要因の一つになるのではないか，と考えられる。また,「子どもを預かる人や場」が29.1%,「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人」が25.3%,そしてＱ８の家庭教育の充実のために必要なこととして,「企業などが家庭教育をしやすい環境づくりに努めること」が37.1%とあることから，仕事をしながらの子育てへの支援を求めていることが分かる。

さらにＱ８から，家庭教育の充実のためには,「行政が支援すること」が48.7%と多くの回答があることから，子育て中の保護者からの行政への強い願いとしてとらえなければならない。

また,「親がもっとすすんで家庭教育に取り組むこと」が42.8%とあるように，家庭教育をもっと充実させたいと考えている保護者の意識の高さも見受けられる。このようにＱ８から，家庭教育の充実のための支援策として,「保護者の学びや交流の場づくり」,「教育・福祉・医療等の関係機関，団体，企業等の連携・協働」,「家庭教育推進のための地域協力体制づくり」を社会教育の視点から協議していく必要がある。

⑵　**地域に求められる家庭教育支援**（資料編 36 ページ：家庭教育支援に関するアンケートから）

※　対象：市町村家庭教育支援担当者，子育て支援センター従事者，ＮＰＯ法人等での家庭教育支援（子育て支援）従事者

Ｑ３：地域で家庭教育を支援するとしたら，どのような支援が望ましいと思いますか。（すでに行われている支援でもよい）

＜学びの場＞ ・　保護者が学べる場所の提供（子育て講座，育児講座等） ・　父親向けの講座 ・　地域の実態に応じた家庭教育学級（子育て経験の話，郷土に関すること等）
＜交流の場＞ ・　子育てサロンなど保護者が集い，語らう場づくり ・　地域行事等に家族で参加できるように声かけ ・　地域の親子会などで世代間交流 ・　地域住民（多世代）とのつながりをもてる場づくり ・　家庭にこもらずに外に出たくなるようなイベントの実施 ・　自由に子どもが遊べる場
＜相談の場や人＞ ・　保護者の困り感など気持ちを言える場や周りの方の意見や話を聞く機会 ・　個人を対象とした相談会や集団での相談会 ・　気軽に相談する事ができる場所 ・　電話（24 時間対応）で話を聞いてくれる支援 ・　子育て相談日の設定
＜地域や企業，行政等によるサポート＞ ・　ファミリーサポートセンターの周知 ・　子どもの一時預かり（地域子育て支援センター，学童保育施設など） ・　子育て中の方への声かけ ・　家にこもりがちな親子のところに出向いていく支援 ・　不登校支援（学校以外での居場所づくり） ・　地域の方による学校への送り迎えや見守りなど ・　放課後の子ども見守り ・　子ども食堂

<⑴のＱ７の調査結果と⑵のＱ３の調査結果との対比>

⑴のＱ７：　あなたは地域で子育てを支えるためにどんな人や場が必要だと思いますか。 あてはまる回答を最大３つまで選んでください。
⑵のＱ３：　地域で家庭教育を支援するとしたら，どのような支援が望ましいと思いますか。 （すでに行われている支援でもよい。）

順位	⑴のＱ７の調査結果	%	⑵のＱ３の調査結果
1	子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場	51.2	○　保護者の困り感など気持ちを言える場や周りの方の意見や話を聞く機会 ○　個人を対象とした相談会や集団での相談会 ○　気軽に相談する事ができる場所 ○　電話（24時間対応）で話を聞いてくれる支援 ○　子育て相談日の設定
2	子どもを預かる人や場	29.1	○　子どもの一時預かり（地域子育て支援センター，学童保育施設など）
3	子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人	25.3	○　地域の方による学校への送り迎えや見守りなど
4	子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの場	25.1	○　子育てサロンなど保護者が集い，語らう場づくり
5	子育てに関する情報を提供する人や場	21.6	○　保護者と支援者とをコーディネートする機関（ファミリーサポートセンター等）
6	子どもにスポーツや勉強を教える人や場	21.1	
7	子どもと一緒に遊ぶ人や場	17.5	○　自由に子どもが遊べる場
8	子育て家庭の家事を支援する人や場	17.2	
9	子どもと大人が一緒に参加できる地域の行事やイベント	14.3	○　地域行事等に家族で参加できるように声かけ ○　家庭にこもらずに外に出たくなるようなイベントの実施
10	小中学校の校外学習や行事をサポートする人	9.8	
11	地域の伝統文化を子どもに伝える人や場	5.5	

＜アンケート結果から読み取れること＞

⑴　子育ての困難や悩みが，家庭内だけで解決することが難しく，地域や行政の支援，さらに寄り添い型の支援を求めていることが分かる。

⑵　従来，大きな役割を果たしてきた家庭教育学級やＰＴＡだけでなく，気軽に参加・交流し，対話できるサロン的な活動や，子供と一緒に参加できるイベントが求められている。

⑶　これまで行われてきた社会教育行政の枠組みを越えて，社会教育が核となりながら，コミュニティ・関係機関・福祉・医療・企業・ＮＰＯなど，多様な機関の参加と連携（例えば，情報弱者にも家庭教育支援情報が提供できる），特に，子育て困難世帯との繋がりをもつコミュニティ協議会や福祉機関との繋がりは不可欠である。

⑷　家庭教育支援が持続できる体制づくりが求められている。

５　地域における家庭教育支援の推進のための方策（提言）

地域における家庭教育支援の推進に当たり，個々の家庭だけに焦点をあてるのではなく，家庭が地域で育っているかというところについて考えなければならない。家庭が地域で育つということが困難になってきていることから，この審議を重ねた。

そこで，現在の子供や子育ての課題に向き合うために，親子をどのように育てていくか，地域の力をどうやって育てていくかが社会教育の役割であると認識し，次の３つの提言で地域における家庭教育支援の推進するための方策を示す。

提言１　保護者の学びや交流の場づくり

家族構成の変化や地域における人間関係の希薄化等から，子供を育てる上で不安を感じる等，身近に相談相手がいない状況にある親子の育ちを支えるための学びと交流の場を豊かな地域としてつくっていく必要がある。

【具体例】
ア　しつけや健康，子供を取り巻く環境など，家庭教育に関する学びの場
イ　父親向けの講座【参考事例：鹿児島市東部親子つどいの広場】
ウ　郷土料理や子守歌，昔話など，地域の方からの学びの場
エ　保護者同士での語らいの場
オ　親子で集えるサロン的な場【参考事例：徳之島町教育委員会社会教育課】
カ　子育ての先輩に相談できる場
　　【参考事例：吉利保育園内子育て支援センターＹＯＵ・ゆう】
キ　専門家に相談できる場【参考事例：さつま町子ども支援課】
ク　子供が自由に遊べる場【参考事例：曽於市すえよし子育てセンター】
ケ　不登校及び不登校傾向の児童・生徒やその保護者の学びや活動，相談の場
コ　青少年教育施設・公民館・図書館等の活用

提言２　教育・福祉・医療等の関係機関，団体，企業等の連携・協働

保護者を乳幼児期から就学時期以降にわたり切れ目なく支援するためには，教育・福祉・医療をはじめとする関係機関，団体，企業等が積極的に連携・協働し，家庭教育支援をしなければならない。様々な団体等のそれぞれの立場からの主体的な取組や積極的な関わりが求められる。

【具体例】
ア　人と人とを繋ぐため，アウトリーチ型の家庭教育支援の継続的な取組
イ　それぞれ機関等の情報共有・対策会議等により，それぞれの分野の有する特徴や専門性を生かした取組
ウ　家庭教育の課題と地域における家庭教育支援の必要性等の周知のため，地域にある企業との積極的な連携による家庭教育支援に関する研修会や子育てフェア等の開催【参考事例：ＮＰＯ法人子育てふれあいグループ自然花】
エ　子育てしながら仕事をする保護者への理解とその環境づくりの取組
オ　団体等の主体的な取組による地域コミュニティの更なる充実とつながり合える地域づくり【参考事例：ＮＰＯ法人いぶすき子育てサポートセンターＬＵＡＮＡ】

提言３　家庭教育推進のための地域協力体制づくり

地域の実情に応じた地域ぐるみの家庭教育支援の取組が広がり，持続できるように，地域全体で家庭教育を支援していく仕組みづくりをしなければならない。そのためには，家庭教育に関するニーズの適切な把握，研修会の工夫・充実，家庭教育を支援する人材養成，関係団体・機関等との連携が求められる。さらに，現在は家庭教育の課題が重要な社会的課題であり，家庭を取り巻く市町村，学校，地域，保健福祉関係機関，企業等，県民全体で家庭教育を支えていくことが必要である。また，強く県民への周知も必要である。

【具体例】

ア　地域の実情に応じた庭教育支援の体制づくり

- 市町村社会教育・生涯学習主管課が核となり，地域の親・子が０歳～17 歳までの切れ目のない支援体制【参考事例：姶良市教育委員会社会教育課】
- 地域の子育てボランティアと市町村社会教育・生涯学習主管課が核となり，福祉機関・コミュニティ機関と連携した家庭教育支援体制【参考事例：霧島市教育委員会社会教育課】

イ　地域と保育園・幼稚園・認定こども園との連携

ウ　地域と学校との連携

- すべての学校における地域学校協働推進体制の構築と積極的な推進

エ　社会教育委員・社会教育主事・社会教育士等の活用

オ　家庭教育支援の人材育成

- 家庭教育支援員
- 家庭教育アドバイザー（家庭教育支援員を統括し，教育と福祉の連携を強化させる役割）

6　これまでの審議の経過

期　日	会　議	内　　容
令和４年 ８月 19 日（金）	令和４年度第１回 社会教育委員の会議	・審議のテーマについて ・審議の進め方について ・アンケートについて
令和５年 １月 31 日（火）	令和４年度第２回 社会教育委員の会議	・「家庭教育・家庭教育支援に関するアンケート」結果・分析について ・今後の方策について
令和５年 ８月 30 日（水）	令和５年度第１回 社会教育委員の会議	・地域における家庭教育支援の推進のための提言に向けて
令和６年 １月 17 日（水）	令和５年度第２回 社会教育委員の会議	・審議のまとめ（案）について

7　おわりに

鹿児島県社会教育委員の会議では，令和４年度から２か年にわたって「地域における家庭教育支援の推進～『親子の育ち』を支えるために～」をテーマとして審議してきた。

審議をまとめるに当たっては，令和４年度に実施した「家庭教育に関するアンケート調査」と「家庭教育支援に関するアンケート調査」の集計・分析結果と，令和５年度に実施した関係機関への聞き取りによる追跡調査等をもとに，「保護者の学びや交流の場づくり」，「教育・福祉・医療等の関係機関，団体，企業等の連携・協働」，「家庭教育推進のための地域協力体制づくり」について検討・協議を行った。本審議は，この検討・協議をまとめたものである。

また，令和６年度からの第４期「鹿児島県教育振興基本計画」では，「Ⅳ　地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進」に「③　家庭教育支援の充実」が明記されている。

このことも踏まえ，今回の提言が，教育行政施策や各市町村・団体等の具体的な取組等に生かされるとともに，親子の育ちを支えるため，地域ぐるみで子育てを支援する気運の醸成や体制づくりが図られることを願うものである。

＜参考事例＞：市町村・支援センター・ＮＰＯ法人等の取組

⑴　姶良市教育委員会社会教育課

ア　組織体制

（ア）　姶良市家庭教育推進委員会

・　行政関係者，学校関係者，PTA 関係者，社会教育関係者，学識経験者，家庭教育サポーター，子育て世代から委員を選定（15 名）

・　家庭教育支援活動の実施方針，広報活動検討・施策，研修の企画・事業の検証や評価などを行う（年３回）

（イ）　家庭教育推進委員会庁内連絡部会

・　市役所内の関係各課の横断的な会（施策の進捗状況の情報共有：年３回）

イ　広報・啓発

（ア）　家庭教育ラジオ・第３日曜９時～９時半　（市の HP,YouTube でも配信）

・　家庭教育学級生・家庭教育サポーター，家庭教育推進委員などが出演

（イ）　子育て手帳の配布（母子手帳に続くものとして，高校期まで）

（ウ）　子育て基本条例の project（プロジェクト）

ウ　　催し物の開催

（ア）　家庭教育フェスティバル

・　市民総ぐるみでの家庭教育支援の気運を高めるため諸団体と連携・協力

・　家庭教育に関する講演会，パネル展示，体験ブース，子供服リサイクル

（イ）　家庭教育サポーター活動事業（子育てサロン）

・　幼小中の家庭教育学級での座談会形式の保護者の子育ての悩み相談など

エ　研修会への参加

家庭教育に携わる職員や家庭教育サポーターのスキルアップのための研修会参加（昨年度は５回）

【聞き取り調査者：岩橋委員・県教育庁社会教育課】

⑵　霧島市教育委員会社会教育課

ア　家庭教育推進協議会の設置

令和２年度から４年度まで，県の「みんなで支える家庭教育推進事業」のモデル指定を受け，家庭・地域社会・学校及び行政が一体となって家庭教育支援に向けた取組を協議し，家庭教育の在り方や具体的な方策について検討することで，家庭の教育力の向上を図ることを目的に，社会教育委員・民生委員児童委員・主任児童委員・サロンの主宰・学校関係者・福祉課などで家庭教育推進協議会を設置した。

社会教育委員の会議では，地域で「親子の育ちを支える」には，子供たちの成長とともに抱える困りごとに，いつでも対応できる支援体制が必要である。地域の協力を得て，教育委員会主催のサロンを開設し，福祉部局や子ども・くらし相談センター「にじいろ」と連携をとることで，支援を必要とする家庭への切れ目のない関係づくりが構築され，地域課題解決活動に繋がると，隼人地区以外の６つの地区に子育てサロンを開設することを提言した。

イ　家庭教育支援チームの組織化

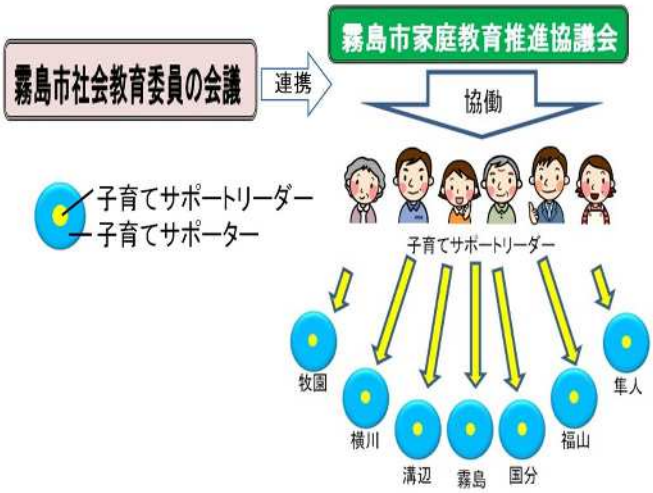
３年間のモデル事業で６つの地区に子育てサロンを設置することになり，１年間で２つの地区に家庭教育支援チーム（子育てサロン）を組織することになった。

各地区の家庭教育支援チームは，教育委員会から派遣されている社会教育コーディネーター（社会教育指導員）が中心になって企画・運営し，地域の支援者は「すももクラブ」などを参考に，主任児童委員が子育てサポートリーダー，子供たちの見守り活動や地域の状況を把握している民生委員児童委員に子育てサポーターとして協力をお願いした。

日頃，高齢者の見守り活動をしている民生委員さんからは不安の声も聞かれたが，主任児童委員研修会や各地区の民生委員児童委員の定例会などで丁寧に説明をすることで，理解がなされた。

子育てサロンの回数を重ねるごとに行事内容を工夫し，子供の遊び相手になり保護者に寄り添いながら，関係機関につなぐ役割を果たしている。

コロナ禍の中でのサポーターの情報交換の場にもなっている。



みんなで支える家庭教育推進事業

ウ　子育てサロン「すももクラブ」の開設

妊娠中から未就園児を持つ家庭の育児への不安や心と体のストレスの解消・ママ友づくりや異世代交流を目的に，平成 27 年５月，姫城地区に公民館主催の子育てサロン「すももクラブ」を開設した。

地域は，新興住宅地や県内・外からの若い世代の転勤族も多く，共働き家庭や核家族化に伴う育児への不安や子育てに悩む家庭も増えている。

子育てサロンでの毎月の行事は，体操や創作活動・読み聞かせ，季節の行事や地域の伝統・文化など伝えられるよう工夫をしている。

鹿児島には，「人の子も，我が子もみんな地域の子」という言葉があるが，地域で子供の見守り・成長を喜び・子育て世代に寄り添い，笑顔あふれる地域にしたいと活動している。

平成 29 年度からは，民生委員・児童委員と連携し，企画・運営をしながら地域の子育て世代の見守り・支援活動につなげている。

むかし遊びに挑戦！！

おしゃべりタイムのおやつ作り

エ　今後の展望

最初はやらされ感があった活動も，それぞれのサロンの地域の事情に合った特色のある活動がなされ，地域の読み聞かせや折り紙教室などのボランティア団体との連携もでき，支援者の輪も広がってきている。

令和４年度で県のモデル事業も終わったことで活動費について不安はあるが，一人ぼっちでの子育てをさせないように，関係団体と連携をとりながら地域のネットワークの中で子供の成長を見守る活動を続けていきたい。

今後は，家庭教育支援チームが子育てサロンでのつながりや経験を活かし，学校の家庭教育学級などで子育ての悩みを語り合える子育てサポーターとしての役割にも期待している。

【聞き取り調査者：県教育庁社会教育課】

⑶　徳之島町教育委員会社会教育課

＜徳之島町家庭教育支援チーム「つむぎたい」＞

ア　チーム・活動の目的

子育てを終えた先輩ママさん，現役ママさんが中心となって，「できる人が，できる時間に，できること」をそれぞれのスキルを活かしながら，子育て家庭を応援する様々な活動に取り組んでいる。

「つむぎたい」は，チーム名の由来でもある奄美群島の特産品「大島紬」と掛け，糸を紡ぐように，人と人，地域と家庭，学校と家庭を紡いでいくとともに，子育てを次の世代へ紡いでいく活動をとおして，地域の子育ての拠り所となることを目指して活動している。

イ　チーム・活動の体制

活動開始年月：2014 年９月

（イ）　活動拠点：鹿児島県徳之島町

（ウ）　活動範囲：町内全域　（人口 9,663 人）※2023.11.1 現在

（エ）　チームのメンバー：６人（元教員1人，NPO法人代表1人，子育て経験者2人，不登校支援員1人，行政職員1人）

（オ）　連携機関等：教育委員会，幼稚園，保育園，小学校，中学校，保健センター

ウ　特色ある活動

（ア）　子育てサロン「ママ navi」の開設

誰でも気軽に参加できる，保護者の交流と相談の場，学びの場として不定期開催し，保護者の悩みの共有や心の負担の軽減を図っている。

（イ）　親子体験講座等の実施

親子が一緒に取り組むことのできる「親子料理教室」や「親子ボランティア講座」等を実施し，親子の絆や家族間の交流を深めるとともに，保護者と地域，保護者と保護者をつなげる活動をしている。

（ウ）　家庭教育啓発資料の作成・活用

教育委員会と連携し，発達段階ごとのアドバイスの載った身長計や子育て応援ブックなど，家庭教育啓発資料を作成して対象の世代へ配布している。中でも，小学校入学前の園児を対象として基本的生活習慣確立のために作成した「早寝，早起き，朝ごはん」に，ごほうびシール形式で取り組んでもらっている。

エ　今後の展望

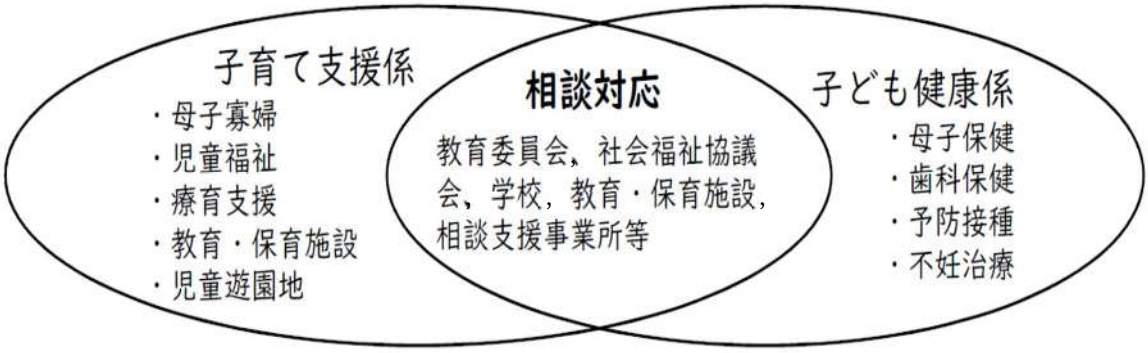
各校区に１人以上の家庭教育支援員の配置を目指して支援員の仲間づくりを進めるとともに，現在の活動をブラッシュアップしながら継続し，福祉や地域との連携を強化し，真に支援の必要な家庭を次の支援へと繋げ，地域と連携して子供たちの成長を支える仕組みづくりを図っていきたい。

【聞き取り調査者：県教育庁社会教育課】

⑷　さつま町子ども支援課

ア　組織体制

住民の困りごとを解決するために，教育委員会，社会福祉協議会等と連携し，情報など共有している。



イ　地域の子育て支援（関係機関や各種団体等との連携）

（ア）　地域子育て支援拠点事業

＜子育て支援センター　クオラ＞　※委託

地域の身近かなところで，気軽に親子の交流や子育て相談ができる。

（イ）　利用者支援事業

＜利用者支援事業　さくらんぼ＞

子育て家庭や妊産婦の困りごと等に合わせて，幼稚園・保育所などの施設や，地域の子育て支援事業などから必要な支援を選択して利用できるように，情報の提供や支援の紹介など行う。

（ウ）　子育て短期支援事業

保護者の疾病その他の理由により，家庭において保育を受けることが困難となった児童に対し，一時的に，児童養護施設等で児童をお預かりする。

（エ）　病児保育

＜病児保育所　かんがるー＞

病気や病後の子ども・保護者が家庭で保育できない場合に，保育所などの専用スペースで預かる。

（オ）　相談機関

＜北薩児童家庭支援センター＞

０歳から 18 歳までの子どもとその家庭に関する相談を受けている。必要に応じて専門機関を紹介し，児童相談所や市町村等の他機関と連携・協力し，子育てを支援する。

＜鹿児島中央児童相談所＞

児童相談所は，子どもの福祉の推進を図るため，児童福祉法に基づき設置された県の機関で，18 歳未満の子どもに関する様々な相談に応じる。

ウ　その他の支援（一部）

＜産後ケア応援券の交付＞

助産所からの来訪または助産所への訪問により保健指導を受けられる「訪問・来所型」の利用応援権（３万円分 1,000 円券）を交付している。子どもが１歳になる前日まで利用できる。

＜ｈｕｇ＜みるーむ＞

２か月児と母親のための育児相談を行っている。保健師，助産師，看護師などが相談に当たり，親子のふれあい遊びやママ・パパ同士の交流の場となっている。

【聞き取り調査者：新田委員・県教育庁社会教育課】

⑸　鹿児島市東部親子つどいの広場

ア　施設の概要

鹿児島市の子育て支援事業の拠点の一つとして鹿児島市中町に 2008 年に設置。

鹿児島市ファミリーサポートセンターの５階フロア全体(建物は鹿児島市,運営は指定者管理)。

市の管轄部署は子ども政策課。メイン事業は遊具・絵本も備えている子ども広場・憩いの広場と研修室２部屋で実施。

絵本 3000 冊（広場のあちこちに目の高さに配架）あり貸出可。

イ　取組

※　土日も含め毎日９時から 17 時まで開館　参加はすべて無料

（ア）　子育て中の親子の交流

- お父さんＤＡＹ　・　誕生会　・　音楽の広場　・　親子ヨガ
- リトミック　・　ピアサロン　・　多胎児の会
- シングルママ・パパ集合　・　外国籍を持つ親子の会
- 合鴨農法での圃場で田植え～収穫までの体験（年５回）
- ファミリーコンサートや観劇　など

（イ）　子育ての悩みの相談・援助

- 保健師，栄養士，臨床心理士，言語聴覚士，助産師等による相談会

（ウ）　子育てについて学び合う講習会

- 専門家による講座など
- 子育て支援に携わる人の養成事業（年５回講座）

（エ）　子育て情報の交換

- 「なかまっち通信」毎月発行（紙媒体と HP／2023 年７月号で 184 号）
- 広場には多くの掲示

ウ　連携

（ア）　運営委員会（年３回）

運営委員会（公募）を年に３回実施し，広く利用者や地域住民との話合いを行っている。委員は利用者代表（父親，母親），通り会，町内会会長，市役所交流課など，全体で６名ぐらい。会議の中から生まれた企画もある。

（イ）　連携機関

・　「おやこつどいの広場」は東西南北４ブロックあり，定期的なブロック会議を実施
・　市生涯学習課との接点としては，就学にむけての研修会での講師依頼
・　災害避難所として中央公民館
・　大学生などのボランティア（※後継者育成）

【聞き取り調査者：岩橋委員・大保委員・下江委員・前田委員・県教育庁社会教育課】

⑹　日置市吉利保育園内子育て支援センターＹＯＵ・ゆう

ア　施設の概要

・　日置市の委託事業（１年契約）
・　日曜休館（一日６時間：９時～15 時）
・　支援員５名（常駐２名）
・　親子 20 組 40 名の登録
・　市内４か所（日吉・吹上・伊集院・東市来）同時に登録可で，どこのプログラムにも参加可能

イ　取組

・　月ごとの各種イベントの実施
（例）・　キッズ・ママダンス
・　プール遊び
・　吹上図書館に行こう
・　妊婦親子交流会
・　栄養士や歯科衛生士による支援
・　福祉サービスの相談・苦情受付
・　市の検診会場等や母子手帳配布時における支援センターの紹介

ウ　特色ある取組，課題に対する取組等

・　利用者のくつろぎの場として機能
（例）夜泣きに疲れた母親に休んでもらう場，母親の不満愚痴を聞く場
・　衣類の譲り合い
・　外国籍の親の就職支援
・　双子ちゃんの会支援
・　保育園児の様子を見ることが，親の新しい学びに繋がっている

エ　関係機関や各種団体等との連携

・　４所（日吉・吹上・伊集院・東市来）担当者の情報交換
・　日置市子育て世代包括支援センター「チャイまる」との連携
（※チャイまる：妊娠・出産・子育て世代の方々の相談窓口）
・　保育料への不安や健康上の悩みなど，相談内容に応じて対応可能な機関を紹介
・　市による補助員養成

オ　その他

・　父親学級を設けてほしいとの要望あり
・　親が孤立しがちな状況の中で，こういう場があることをもっと知って欲しい。

【聞き取り調査者：前田委員・県教育庁社会教育課】

⑺　ＮＰＯ法人いぶすき子育てサポートセンターＬＵＡＮＡ（指宿市）

ア　施設の概要

（ア）　設立：2021 年９月７日
（イ）　目的：子育て中の保護者に対して，育児支援・学びや交流の場づくりに関する事業を行い，子育て環境の向上，家庭教育の推進，子どもを核とした豊かな社会の形成並びに子どもの健全育成に寄与する。

イ　特色ある取組

育児中の母親が孤立することなく，子育ての悩み等についても気軽に相談できる場，リフレッシュできる場の提供

（ア）　保護者や子どもたちの交流の場
「親子でパン作り」・「手型・足型アート」・「ハロウィン撮影会」など
（イ）　母親に寄り添い支援する場
「公式ＬＩＮＥアカウントでの相談対応」など
（ウ）　子育てのアドバイスとなる学びの場
「離乳食講座」・「読み聞かせ講座」・「マネー講座」など
（エ）　保護者に癒やしやリラックスできる場
「アロマ de クラフト」・「ファッションコーデ講座」・「ジャニーズ推し会」など

【ボクシングエクササイズ】

ウ　関係機関や各種団体等との連携

設立して間もないこともあり，現在は代表者が身近に相談できる企業，団体，個人に直接声をかけて，密な連携を図っている。

また，イベント等の広報手段は，インスタグラムでの情報発信で，子育て中の保護者の中では知名度も上がってきている。

今後は，行政や企業の取り組む助成事業等に申請し，法人の財源を確保していく。スタッフ等も採用し，活動をより深めていきたい。

【聞き取り調査者：大脇委員・県教育庁社会教育課】

⑻　曽於市すえよし子育て支援センター

ア　施設の概要

生きいき健康センター（指定管理者制度利用）内に設置

事務室と親子で過ごせる子育て支援のための部屋（キッズコーナー）があり，部屋は曽於市子ども未来課の管轄

イ　取組

- キッズコーナー（自由遊び）月～金曜日
- 子育て広場　毎週木曜日（７組限定で実施）
- 子育て講座　年 20 回
- 一時預かり　最大３時間まで有料で預かり
- 発達相談などは他につなぐ窓口として機能
- 親子ふれあいコンサート（曽於市の楽団による）年 1 回 400 名以上参加
- 子育て通信を毎月発行

【聞き取り調査者：岩橋委員・県教育庁社会教育課】

⑼　ＮＰＯ法人子育てふれあいグループ自然花（枕崎市）

ア　施設の概要

（ア）　設立：2009 年７月，枕崎市木口屋集落に設立

（イ）　目的：親子を対象にした宿泊・体験事業を通じて家族関係の良化を図り，また，一時預かり事業・子育てサロン事業・相談事業を行うことにより，子育てが社会の中で安心して行える環境作りに寄与する。

イ　主な活動

（ア）　親子ふれあい体験事業

- 親子での自然体験や農業体験
- 家族で収穫した野菜などを使っての調理

（イ） 一時預かりと学習支援事業

・ 放課後,「学習する場」,「子供の居場所」としての学習支援

（ウ） 相談事業

・ 子育てについての相談や不登校相談の受付

・ 不登校相談については，学校との連携を図った研修会の実施と，不登校の子供たちを預かり，体験プログラムの実施

（エ） 子育てサロン

・ 親子で気軽に遊びに来てもらい，相互援助活動を行う場として解放

・ 育児についての相談対応

ウ 特色ある活動例：企業と連携した親子ふれあい体験事業

（ア） 連携の経緯

鹿児島信用金庫が， 自然とのふれあいを通じて子供たちの健全な育成に寄与することを目的とした事業の開催に当たり，子育て支援や環境保護に取り組んでいるＮＰＯ法人子育てふれあいグループ自然花に協力の依頼をした。

（イ） 内容

・ 事業名：かしん「自然ふれあい」教室

・ 参加者：親子 50 名

・ カリキュラム：ツリーハウス広場遊び（フィールドアスレチックなど）
季節の野菜収穫
ピザ作り体験（ピザ生地作り・トッピング・ピザ焼き）
どんぐりを使ったトトロキーホルダー作り
里山散策

（ウ） 企業からの感想

野菜を収穫することや, フィールドアスレチックを体験する機会は今では少なくなっており, このような体験学習を親子で参加して楽しめたことは子供の健全育成と親子の絆を一層深めていただく有意義な活動になった。

【写真：鹿児島信用金情報誌
IKIIKI2021 Vol.6 掲載】

【聞き取り調査者：県教育庁社会教育課】

＜資料編＞

家庭教育に関するアンケート

1　調査の実施方法

⑴　調査手法

鹿児島県電子申請システムによる

⑵　調査地域

鹿児島県全域

⑶　対象者条件

幼稚園児・小学校児童・中学校生徒の保護者

⑷　標本抽出方法：

令和４年度鹿児島県の教育行政における，地区別，市町村別公立小・中・義務教育学校数，学級数，児童生徒数，教員数（令和４年４月６日現在）に基づいた，鹿児島県の児童生徒の構成に寄せた構成比とした。

	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	姶良･伊佐	大隅	熊毛	大島	計
幼稚園	207	-	55	194	93	142	85	-	776
小学校	1,865	189	499	537	927	554	469	516	5,556
中学校	958	156	340	224	476	422	72	170	2,818
計	3,030	345	894	955	1,496	1,118	626	686	9,150

⑸　調査期間

令和４年12月12日（月）～12月28日（水）

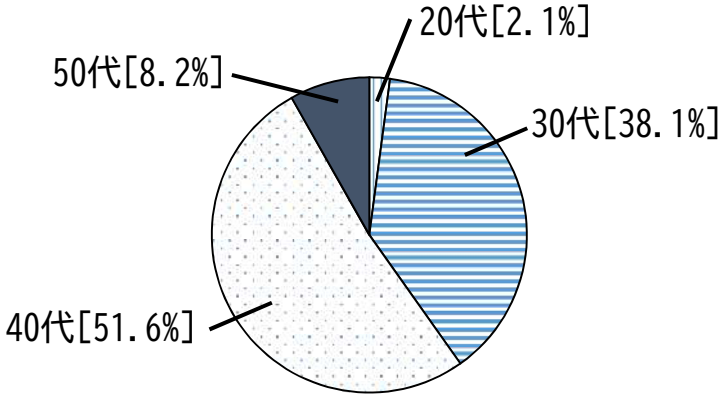
2　回答者属性

⑴　回答者数

1,608人

⑵　年代

20代：　34人
30代：612人
40代：830人
50代：132人

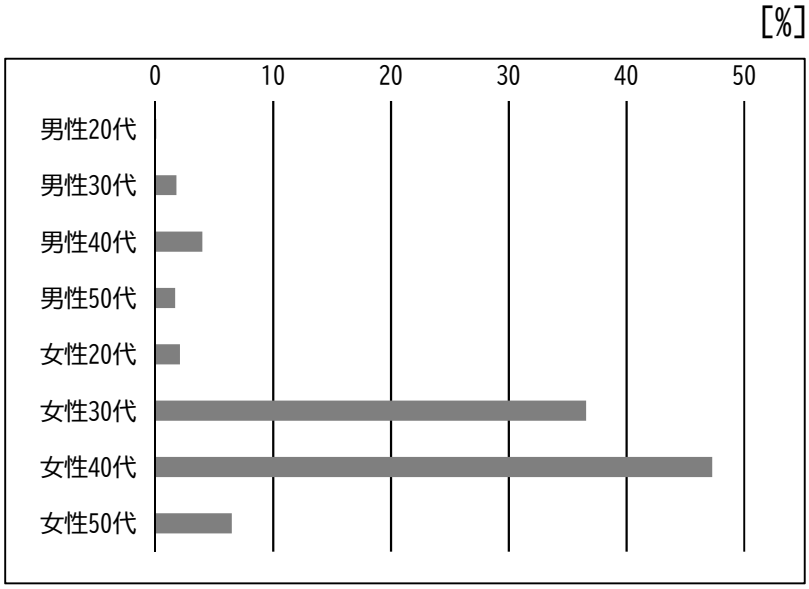


⑶　性別

男　性：　117人
女　性：　1,438人
無回答：　53人

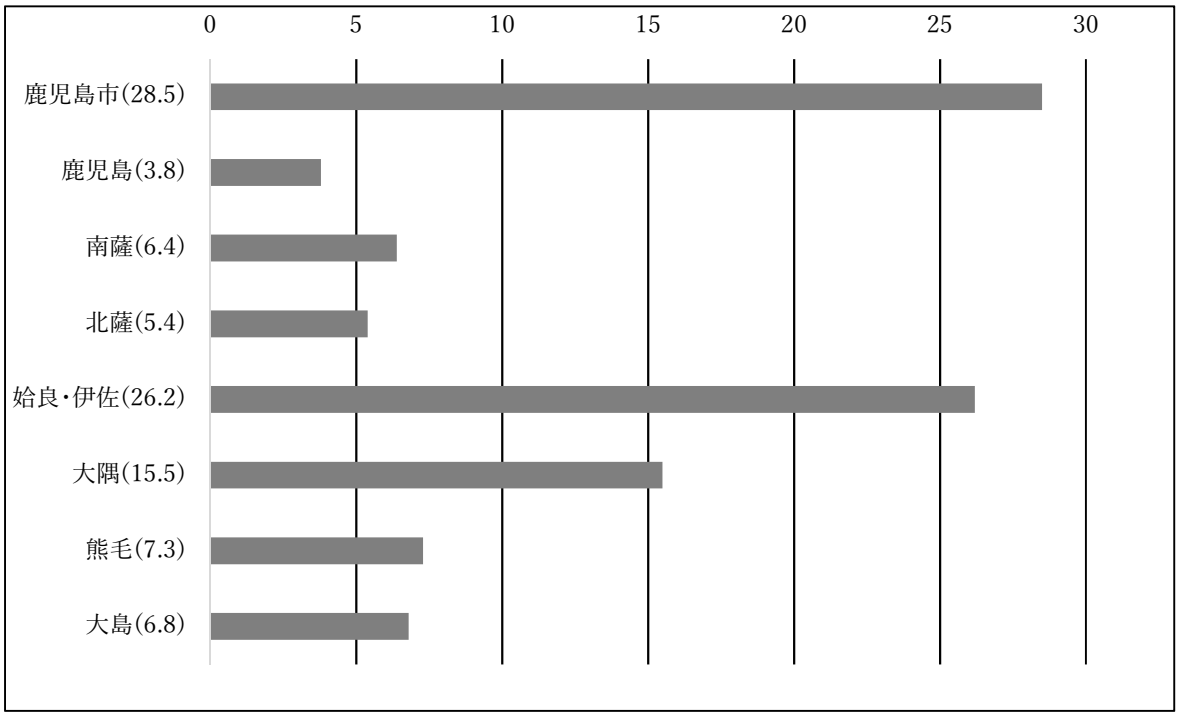
⑷　性別・年代

20代 男 性：　1人
30代 男 性：　28人
40代 男 性：　62人
50代 男 性：　26人
20代 女 性：　32人
30代 女 性：569人
40代 女 性：736人
50代 女 性：101人
20代無回答：　1人
30代無回答：　15人
40代無回答：　32人
50代無回答：　5人



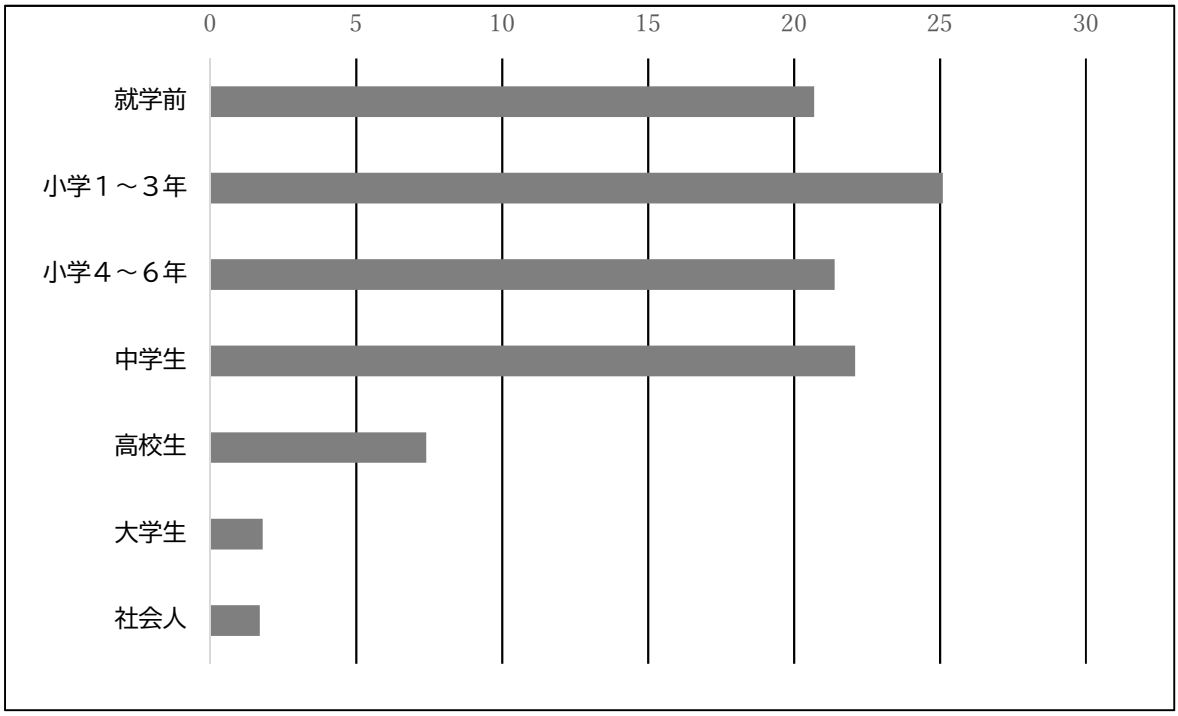
⑸　居住エリア

［%］



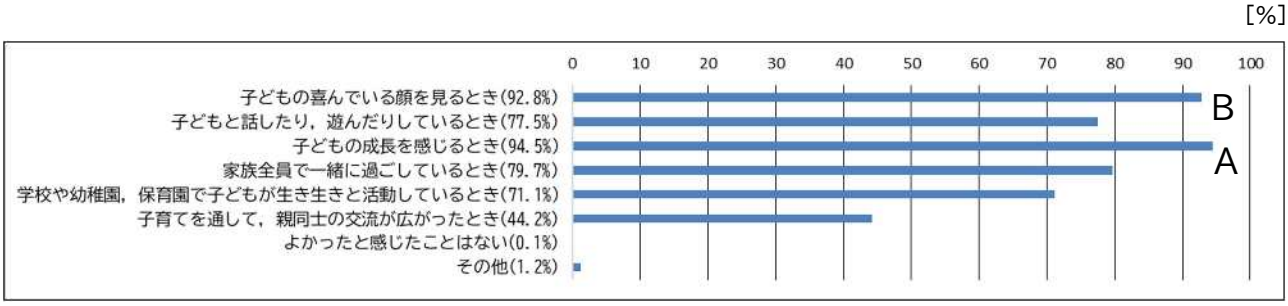
⑹　子どもの年代

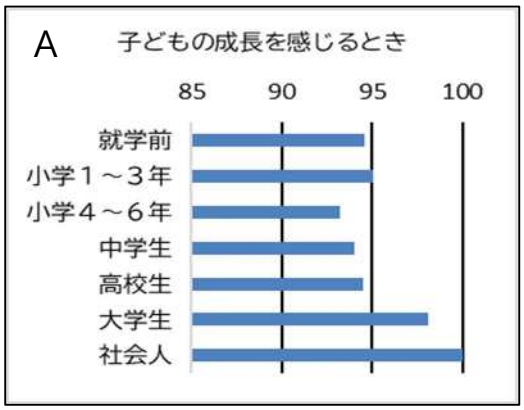
［%］

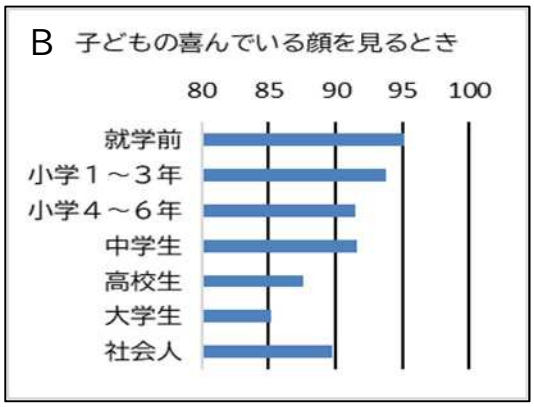


Ｑ１：子育てをしていて，どのようなときによかったと思いますか。（複数回答可）

保護者の年代を問わず，９割以上の保護者が子育てのよさを，子どもの成長を感じるときや喜んでいる顔を見るときだと感じている。また，約８割の保護者が，家族全員で一緒に過ごす時間，子どもと話したり遊んだりしている時間に子育てのよさを感じている。





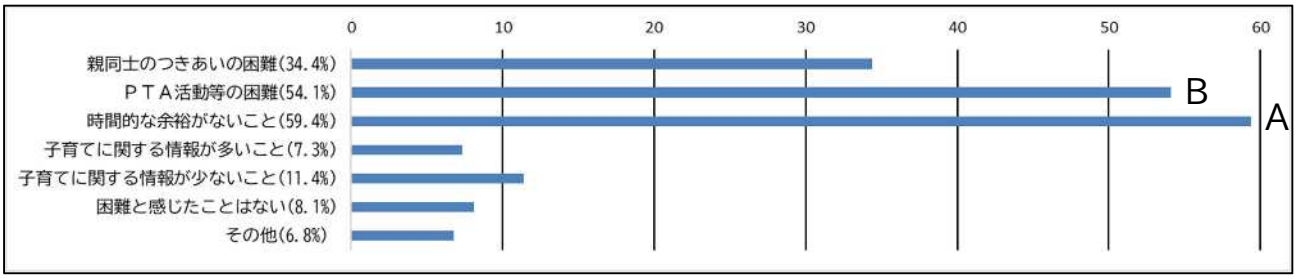


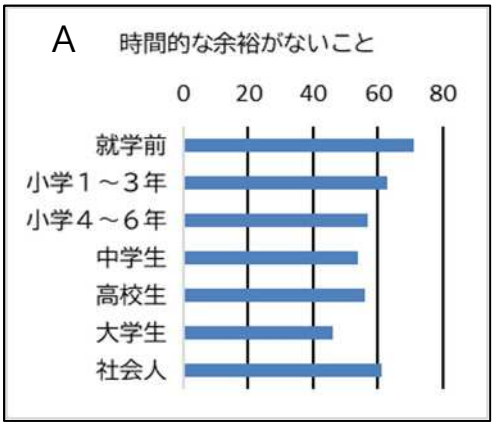
	実数計	子どもの喜んでいる顔を見るとき B	子どもと話したり，遊んだりしているとき	子どもの成長を感じるとき A	家族全員で一緒に過ごしているとき	学校や幼稚園，保育園で子どもが生き生きと活動しているとき	子育てを通して，親同士の交流が広がったとき	よかったと感じたことはない	その他
□子どもの年代[%]									
就学前	2,929	95.1	81.2	94.6	85.0	78.4	43.6	0.0	0.7
小学１～３年	3,513	93.8	80.1	95.1	82.5	75.5	45.8	0.0	0.7
小学４～６年	2,940	91.5	77.1	93.2	81.0	70.0	47.4	0.3	0.9
中学生	2,948	91.6	75.2	94.0	76.6	65.2	47.0	0.2	1.7
高校生	982	87.6	76.6	94.5	76.1	63.3	51.8	0.0	0.5
大学生	237	85.2	75.9	98.1	70.4	66.7	38.9	0.0	3.7
社会人	233	89.8	81.6	100.0	81.6	71.4	49.0	0.0	2.0
□保護者の年代[%]									
20代	164	97.1	88.2	94.1	88.2	82.4	32.4	0.0	0.0
30代	2,843	95.1	77.5	94.1	81.7	73.9	41.2	0.2	1.0
40代	3,820	91.4	78.0	94.8	79.4	69.0	46.3	0.1	1.2
50代	591	90.2	72.7	93.9	71.2	68.9	47.7	0.0	3.0
□保護者の性年代									
全体	7,163	1,493	1,247	1,519	1,283	1,144	710	2	20
男性	493	99	93	106	90	74	28	2	1
男性 20代	6	1	1	1	1	1	1	0	0
男性 30代	120	25	25	25	21	20	3	1	0
男性 40代	267	52	50	56	49	39	19	1	1
男性 50代	100	21	17	24	19	14	5	0	0
女性	6,670	1,343	1,112	1,363	1,148	1,029	656	0	19
女性 20代	154	31	28	30	28	27	10	0	0
女性 30代	2,652	543	437	537	467	420	242	0	6
女性 40代	3,398	676	571	701	582	509	350	0	9
女性 50代	466	93	76	95	71	73	54	0	4

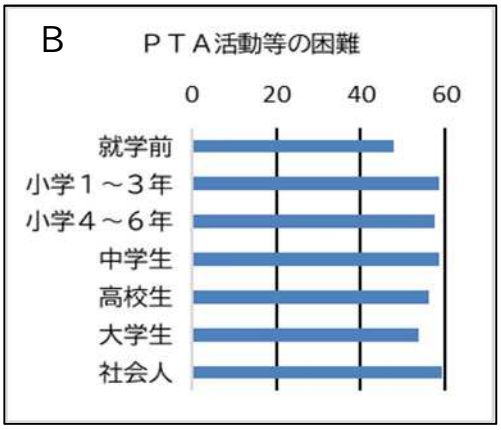
Ｑ２：子育てをしていて，どのようなことに困難を感じていますか。（複数回答可）

子育ての困難さを，時間的な余裕がないことと捉えている保護者が59.4%で最も高い。特に，就学前から小学１～３年生の子どもをもつ保護者の割合が高くなっている。ＰＴＡ活動等の困難さが54.1%となっている。これは，小・中学生の保護者の割合が高くなっている。逆に，困難と感じることはないと回答した保護者は8.1%だった。

［%］







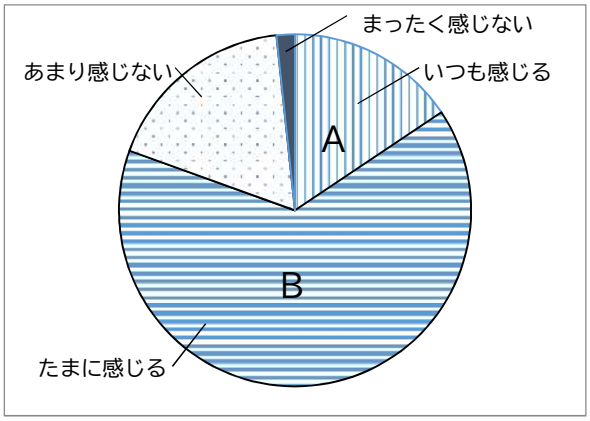
	実数計	親同士のつきあいの困難	ＰＴＡ活動等の困難 B	時間的な余裕がないこと A	子育てに関する情報が多いこと	子育てに関する情報が少ないこと	困難と感じたことはない	その他
□子どもの年代[%]								
就学前	117	30.6	47.7	70.9	9.3	11.9	6.7	5.4
小学１～３年	1,381	36.0	58.5	62.8	7.5	8.9	6.3	6.1
小学４～６年	1,175	36.4	57.6	56.7	6.9	12.2	7.7	6.9
中学生	1,199	37.2	58.5	53.9	5.1	12.6	9.0	7.4
高校生	395	36.7	56.0	56.0	6.9	7.3	8.7	9.6
大学生	92	40.7	53.7	46.3	1.9	9.3	11.1	7.4
社会人	99	42.9	59.2	61.2	6.1	22.4	2.0	8.2
□保護者の年代[%]								
20代	54	35.3	26.5	61.8	2.9	8.8	11.8	11.8
30代	1,146	32.4	53.3	68.6	10.0	11.4	6.5	5.1
40代	1,483	34.9	56.6	54.5	6.0	10.4	8.8	7.5
50代	237	40.2	49.2	47.0	4.5	18.9	9.8	9.8
□保護者の性年代								
全体	2,819	553	870	955	118	184	130	110
男性	217	47	63	61	13	15	12	6
男性 20代	2	0	1	1	0	0	0	0
男性 30代	60	11	19	19	6	4	1	0
男性 40代	107	21	29	32	5	7	9	4
男性 50代	48	15	14	9	2	4	2	2
女性	2,602	493	776	860	99	163	113	98
女性 20代	51	12	7	20	1	3	4	4
女性 30代	1,054	182	298	388	52	65	38	31
女性 40代	1,316	262	423	401	42	74	61	53
女性 50代	181	37	48	51	4	21	10	10

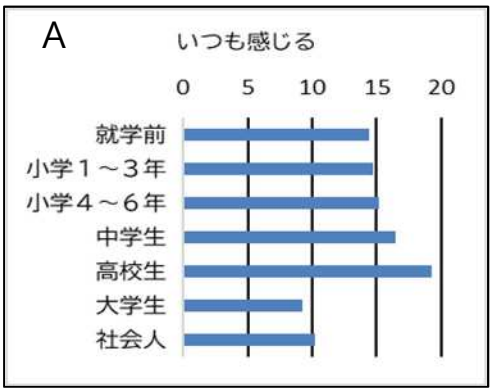
Ｑ３：子育てをしていて，悩みや不安を感じますか。

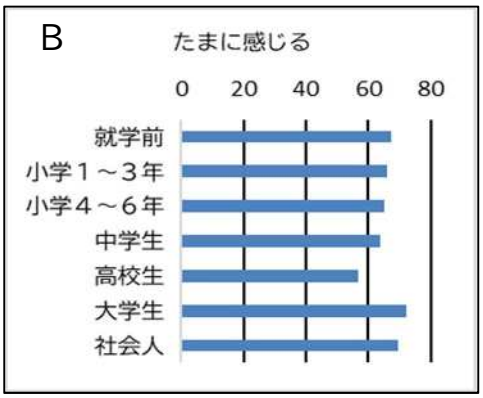
悩みや不安を「いつも感じる」，「たまに感じる」と回答した合計が80.5%となっており，ほとんどの保護者が年代を問わず，悩みや不安を感じながら，子育てをしていることがわかる。

[%]

いつも感じる	15.6%
たまに感じる	64.9%
あまり感じない	17.8%
まったく感じない	1.7%





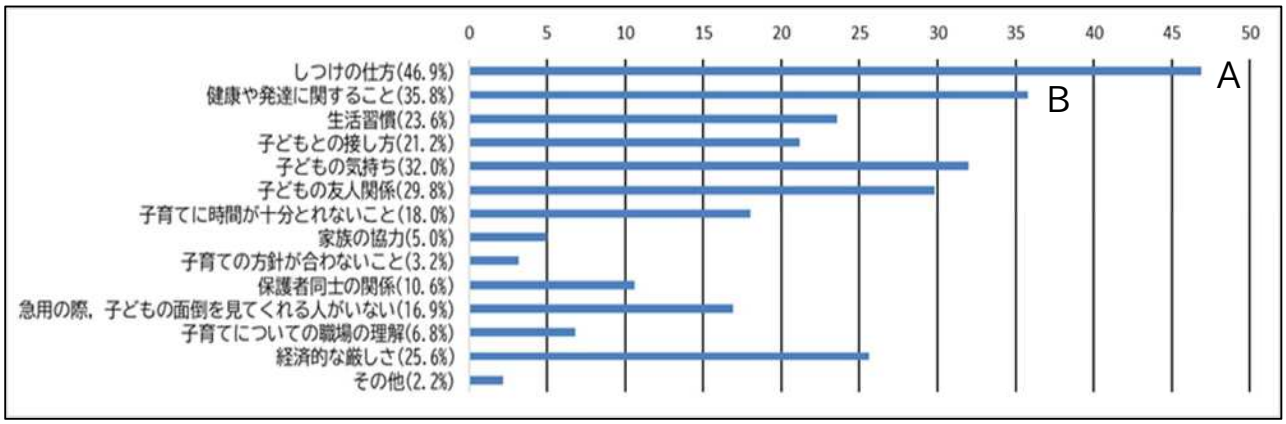


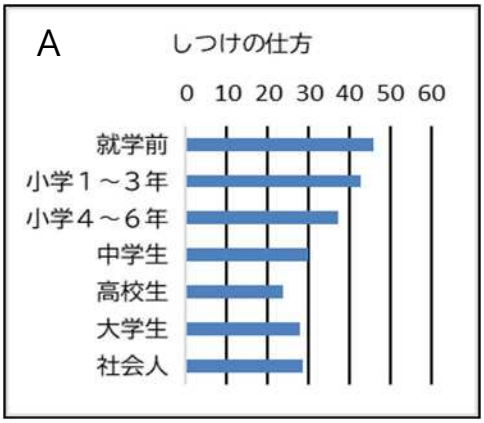
	実数計	いつも感じる A	たまに感じる B	あまり感じない	まったく感じない
□子どもの年代[%]					
就学前	612	14.4	67.3	17.0	1.3
小学１～３年	742	14.7	66.2	17.4	1.8
小学４～６年	632	15.2	65.0	17.7	1.3
中学生	653	16.5	64.0	17.9	1.5
高校生	218	19.3	56.9	22.5	1.4
大学生	54	9.3	72.2	16.7	1.9
社会人	49	10.2	69.4	20.4	0.0
□保護者の年代[%]					
20代	34	8.8	55.9	29.4	5.9
30代	612	15.0	67.3	16.2	1.5
40代	830	16.3	63.5	18.6	1.7
50代	132	15.9	65.2	17.4	1.5
□保護者の性年代					
全体	1,555	251	1,044	286	27
男性	117	16	71	27	3
男性20代	1	0	1	0	0
男性30代	28	3	19	5	1
男性40代	62	12	31	18	1
男性50代	26	1	20	4	1
女性	1,438	228	940	246	24
女性20代	32	3	18	9	2
女性30代	569	89	381	91	8
女性40代	736	117	478	128	13
女性50代	101	19	63	18	1

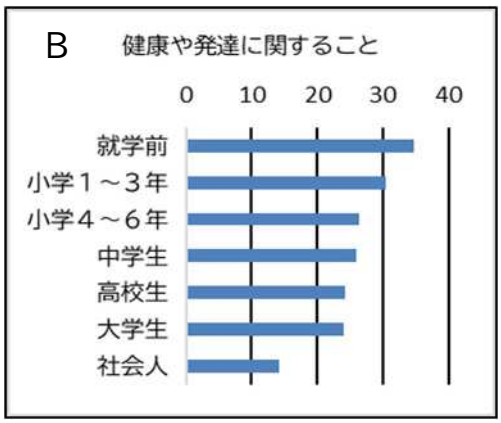
Ｑ４：「いつも感じる」，「たまに感じる」と回答した人へ，どのような悩みや不安を感じますか。あてはまる回答を３つ選んでください。

悩みや不安の内容は，「しつけの仕方」が46.9%で最も多く，次いで「健康や発達に関すること」，「子どもの気持ち」，「子どもの友人関係」，「経済的な厳しさ」の順になっている。「しつけの仕方」について，悩みや不安を感じている保護者は，20代・30代の保護者，子どもが就学前，小学１～3年生の保護者の割合が高くなっている。

［%］



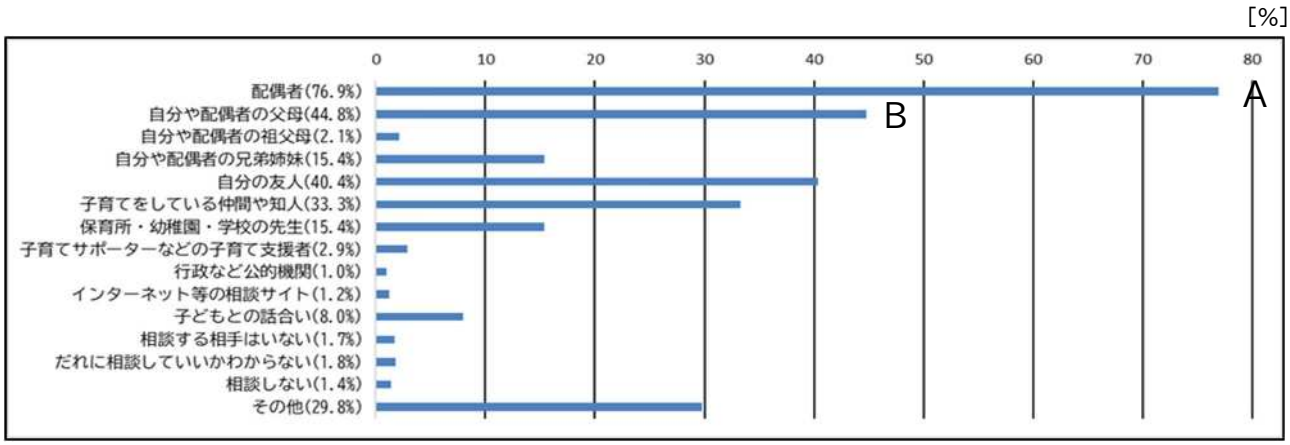


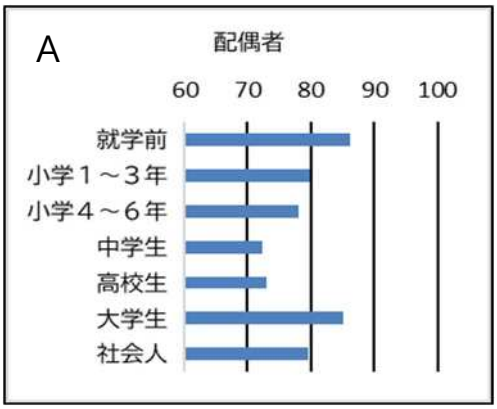


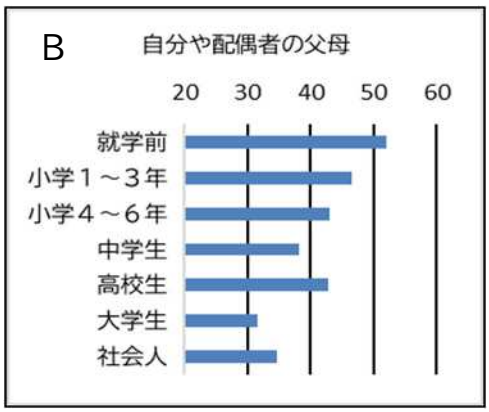
	実数計	しつけの仕方 A	健康や発達に関すること B	生活習慣	子どもとの接し方	子どもの気持ち	子どもの友人関係	子育てに時間が十分とれないこと	家族の協力	子育ての方針が合わないこと	保護者同士の関係	急用の際，子どもの面倒を見てくれる人がいない	子育てについての職場の理解	経済的な厳しさ	その他
□子どもの年代[%]															
就学前	1,408	45.8	34.8	17.8	19.6	23.5	16.8	15.8	3.6	2.3	6.0	19.4	5.6	17.5	1.5
小学１～３年	1,708	42.9	30.5	17.1	17.8	24.9	25.1	17.8	2.8	2.6	8.4	16.3	5.5	17.0	1.6
小学４～６年	1,441	37.2	26.5	21.0	17.3	27.8	30.3	13.7	3.6	3.0	9.3	9.4	5.0	19.8	2.4
中学生	1,425	29.9	25.9	20.4	15.2	26.2	26.8	11.9	5.1	2.9	9.6	8.3	5.8	28.2	2.1
高校生	460	23.9	24.3	18.3	13.8	25.7	23.4	11.0	6.0	3.2	10.6	7.3	6.4	33.9	3.2
大学生	114	27.8	24.1	16.7	9.3	29.6	25.9	7.4	5.6	1.9	9.3	13.0	11.1	29.6	0.0
社会人	108	28.6	14.3	16.3	10.2	32.7	30.6	14.3	6.1	4.1	10.2	6.1	12.2	32.7	2.0
□保護者の年代[%]															
20代	67	38.2	23.5	26.5	14.7	17.6	2.9	11.8	0.0	0.0	0.0	23.5	14.7	23.5	0.0
30代	1,409	45.4	33.0	14.7	18.8	26.1	20.1	16.0	2.9	2.9	8.5	16.5	5.2	18.6	1.3
40代	1,846	34.3	26.5	21.0	16.1	25.8	28.1	14.5	5.1	2.7	8.7	11.2	5.7	20.8	2.0
50代	275	24.2	25.8	24.2	15.9	26.5	22.0	8.3	3.8	1.5	9.8	12.9	3.0	27.3	3.0
□保護者の性年代															
全体	3,476	608	464	305	275	415	386	233	65	42	137	219	88	331	29
男性	241	48	30	33	13	23	19	5	2	2	14	15	8	27	2
男性 20代	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
男性 30代	63	15	9	6	6	4	3	0	2	0	3	3	3	7	2
男性 40代	126	23	19	17	5	11	13	5	0	2	6	7	4	14	0
男性 50代	49	10	2	9	2	8	3	0	0	0	5	4	1	5	0
女性	3,235	547	421	261	253	372	352	216	61	40	118	200	77	291	26
女性 20代	63	13	8	8	5	5	1	4	0	0	0	7	5	7	0
女性 30代	1,317	259	190	79	108	152	118	93	16	18	48	96	28	106	6
女性 40代	1,643	254	193	153	122	190	209	108	40	20	62	84	41	150	17
女性 50代	212	21	30	21	18	25	24	11	5	2	8	13	3	28	3

Ｑ５： 子育てについての悩みや不安をだれに相談してますか。または，相談したいですか。あてはまる回答を３つ選んでください。

悩みや不安の相談相手は子ども・保護者の年代に関係なく「配偶者」が76.9%で最も多く，次いで「自分や配偶者の父母」が44.8%となっており，家族に相談していることが分かる。「自分の友人」や「仲間や知人」に相談すると回答している人が40%いる。「相談する相手はいない」，「だれに相談していいかわからない」，「相談しない」の回答が，約1.5%あった。







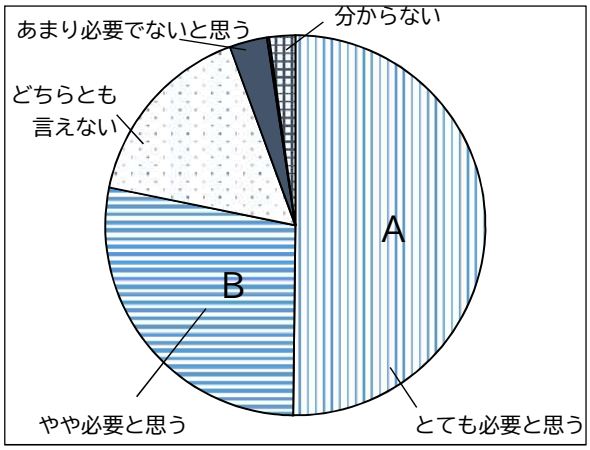
	実数計	配偶者 A	自分や配偶者の父母 B	自分や配偶者の祖父母	自分や配偶者の兄弟姉妹	自分の友人	子育てをしている仲間や知人	保育所・幼稚園・学校の先生	子育てサポーターなどの子育て支援者	行政など公的機関	インターネット等の相談サイト	子どもとの話合い	相談する相手はいない	だれに相談していいかわからない	相談しない	その他
□子どもの年代[%]																
就学前	1,594	86.1	52.0	2.5	17.0	36.6	30.7	22.2	4.2	0.8	1.1	3.6	1.0	1.0	0.7	1.0
小学１～３年	1,897	79.9	46.6	2.0	16.7	39.9	34.1	18.1	3.9	0.9	1.1	6.2	1.8	1.9	1.1	1.5
小学４～６年	1,579	78.0	42.9	1.9	15.2	41.9	33.3	15.1	2.2	0.5	1.4	9.3	1.3	1.7	1.6	1.7
中学生	1,563	72.3	38.1	2.0	14.2	44.1	35.8	11.8	0.6	1.4	1.4	11.0	1.4	1.7	1.7	1.8
高校生	533	72.9	42.7	1.8	15.1	45.4	31.7	13.3	1.8	1.4	1.4	10.6	1.4	2.3	2.3	0.5
大学生	127	85.2	31.5	1.9	14.8	42.6	37.0	5.6	0.0	0.0	0.0	9.3	1.9	1.9	1.9	1.9
社会人	123	79.6	34.7	2.0	14.3	38.8	40.8	10.2	0.0	2.0	2.0	16.3	4.1	2.0	2.0	2.0
□保護者の年代[%]																
20代	84	88.2	61.8	8.8	20.6	29.4	17.6	11.8	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0
30代	1,563	81.2	54.4	2.3	16.7	38.1	28.6	17.3	3.4	0.7	1.1	4.9	1.8	2.3	1.5	1.1
40代	2,037	74.6	40.8	1.7	14.2	42.4	37.0	14.3	2.7	1.2	1.1	9.0	1.7	1.6	1.2	1.9
50代	302	68.2	20.5	1.5	15.9	40.9	36.4	14.4	1.5	1.5	2.3	18.2	2.3	0.8	2.3	2.3
□保護者の性年代																
全体	3,849	1,236	720	33	248	649	536	248	46	16	20	129	28	29	22	26
男性	238	86	26	3	9	23	32	18	2	2	2	17	5	4	6	3
男性20代	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
男性30代	62	22	10	2	2	5	7	5	1	0	0	3	1	2	2	0
男性40代	126	47	13	1	5	12	20	8	0	2	1	8	3	2	2	2
男性50代	49	16	3	0	2	6	5	5	1	0	1	6	1	0	2	1
女性	3,611	1,104	670	30	230	608	487	226	42	13	18	100	21	24	16	22
女性20代	81	28	21	3	7	9	6	4	1	0	1	0	0	1	0	0
女性30代	1,460	462	314	12	96	224	164	99	20	4	7	25	8	11	7	7
女性40代	1,828	545	312	13	109	328	276	109	20	7	8	58	11	11	8	13
女性50代	242	69	23	2	18	47	41	14	1	2	2	17	2	1	1	2

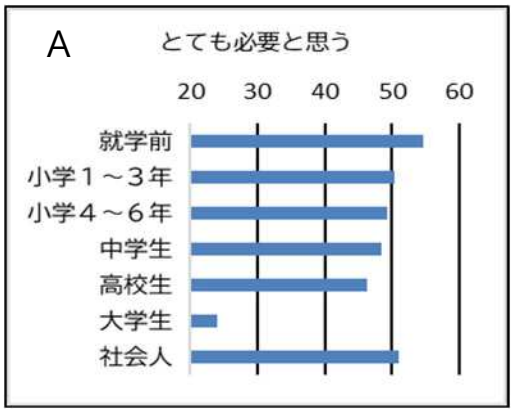
Ｑ６：子育て中の人にとって，子育て中の人同士の交流の場や気軽に相談できる場や人など地域の支援は必要だと思いますか。

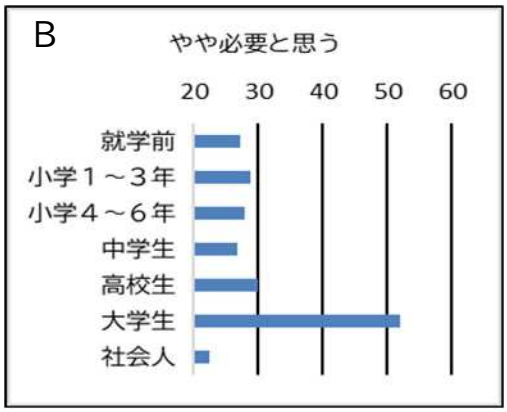
地域の支援は,「とても必要」,「やや必要」と回答した合計が78.4%となっており,「あまり必要ではない」,「まったく必要ではない」を大きく上回っている。特に，20代の保護者の約９割は地域の支援は必要だと思っており，他の年代より高くなっている。

[%]

とても必要と思う	50.2%
やや必要と思う	28.0%
どちらとも言えない	16.2%
あまり必要ではないと思う	3.2%
まったく必要ではないと思う	0.5%
分からない	2.2%





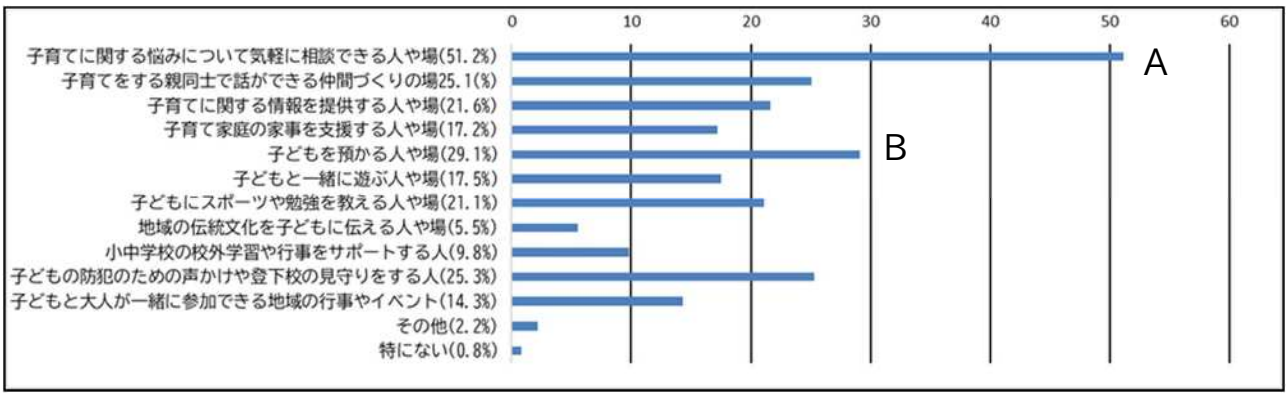


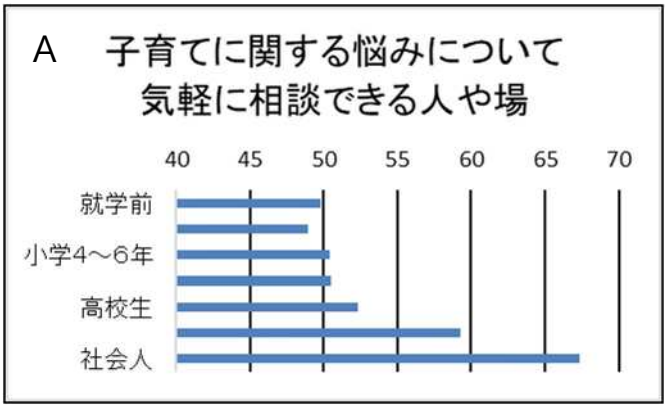
	実数計	とても必要と思う A	やや必要と思う B	どちらとも言えない	あまり必要ではないと思う	まったく必要ではないと思う	分からない
□子どもの年代							
就学前	612	54.6	27.1	14.7	2.3	0.0	1.3
小学１～３年	742	50.3	28.8	16.0	3.0	0.1	1.8
小学４～６年	632	49.3	27.8	16.2	3.6	0.0	2.4
中学生	653	48.4	26.8	18.1	4.0	0.3	2.5
高校生	218	46.3	29.8	16.5	4.1	0.0	3.2
大学生	54	24.1	51.9	18.5	1.9	0.0	3.7
社会人	49	51.0	22.4	22.4	4.1	0.0	0.0
□保護者の年代							
20代	34	67.6	20.6	8.8	0.0	0.0	2.9
30代	612	49.7	28.9	15.4	3.6	0.2	2.3
40代	830	49.3	27.7	18.0	3.1	0.1	1.8
50代	132	53.8	28.0	10.6	2.3	0.8	4.5
□保護者の性年代							
全体	1,627	807	451	260	51	3	36
男性	117	53	33	22	3	0	6
男性20代	1	1	0	0	0	0	0
男性30代	28	11	11	5	1	0	0
男性40代	62	25	17	14	2	0	4
男性50代	26	16	5	3	0	0	2
女性	1,510	729	478	224	47	3	29
女性20代	32	21	7	3	0	0	1
女性30代	569	287	160	86	21	1	14
女性40代	808	368	280	126	23	1	10
女性50代	101	53	31	9	3	1	4

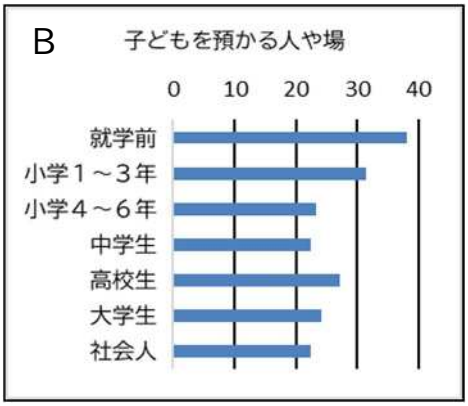
Ｑ７： あなたは地域で子育てを支えるために，どんな人や場が必要だと思いますか。
あてはまる回答を最大３つまで選んでください。

「悩みについて気軽に相談できる人や場」が51.2%で最も多く，次いで「子どもを預かる人や場」が29.1%，「防犯のための声かけや見守り」が25.3%，「親同士の仲間づくりの場」が25.1%の順になっている。

[%]





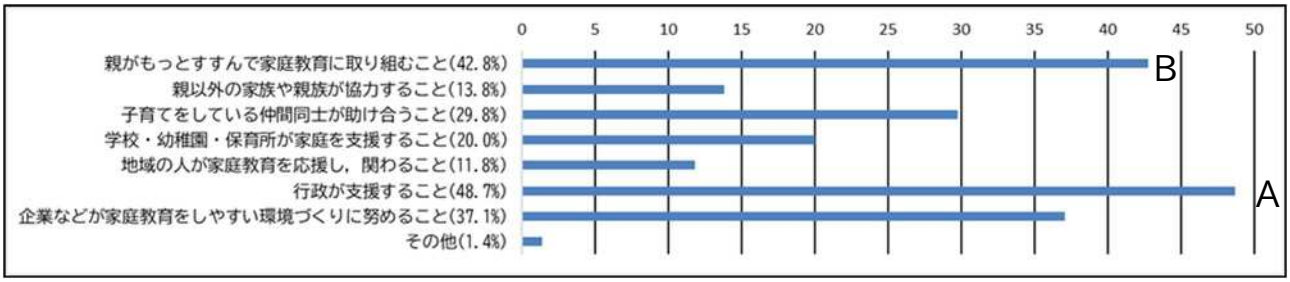


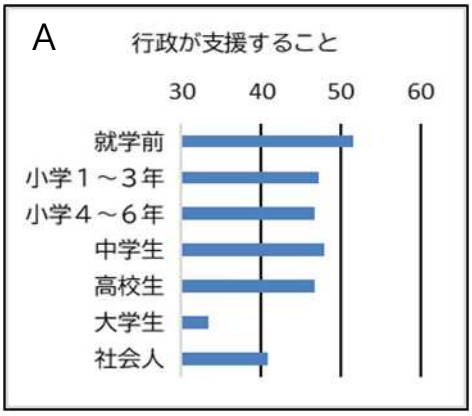
	実数計	子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場 A	子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの場	子育てに関する情報を提供する人や場	子育て家庭の家事を支援する人や場	子どもを預かる人や場 B	子どもと一緒に遊ぶ人や場	子どもにスポーツや勉強を教える人や場	地域の伝統文化を子どもに伝える人や場	小中学校の校外学習や行事をサポートする人	子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人	子どもと大人が一緒に参加できる地域の行事やイベント	特にない	その他
□子どもの年代														
就学前	1,529	49.8	28.3	19.8	22.1	38.1	20.8	17.2	5.1	7.2	25.7	14.2	0.3	1.5
小学１～３年	1,826	48.9	24.9	19.1	19.0	31.4	18.7	21.3	5.7	10.0	27.6	17.0	0.7	1.8
小学４～６年	1,516	50.4	25.4	22.3	15.2	23.2	16.5	22.6	6.8	10.8	26.1	14.4	1.6	2.7
中学生	1,513	50.5	24.5	22.5	15.8	22.5	11.8	26.2	7.0	11.5	23.7	11.2	1.4	3.1
高校生	509	52.3	25.7	18.3	12.8	27.1	11.9	26.6	6.0	9.2	28.4	13.3	0.5	1.4
大学生	125	59.3	29.6	25.9	11.1	24.1	3.7	16.7	7.4	9.3	31.5	11.1	1.9	0.0
社会人	117	67.3	26.5	32.7	14.3	22.4	8.2	12.2	0.0	12.2	28.6	10.2	2.0	2.0
□保護者の年代														
20代	83	38.2	26.5	26.5	8.8	38.2	32.4	11.8	2.9	5.9	26.5	26.5	0.0	0.0
30代	1,488	50.3	26.3	18.8	19.4	35.1	21.4	19.4	3.8	8.0	24.3	14.4	0.3	1.5
40代	1,975	51.1	24.3	23.0	16.4	25.4	14.6	21.9	6.5	10.5	26.5	14.0	1.3	2.4
50代	325	59.8	23.5	24.2	14.4	22.0	13.6	26.5	7.6	15.2	22.0	12.9	0.0	4.5
□保護者の性年代														
全体	3,725	824	403	347	277	468	281	340	88	158	407	230	13	35
男性	266	54	25	27	18	32	21	30	7	12	17	18	2	3
男性 20代	3	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
男性 30代	64	11	7	8	4	7	6	7	1	1	5	6	0	1
男性 40代	141	27	13	12	9	18	13	17	4	6	10	9	2	1
男性 50代	58	16	5	7	4	6	2	5	2	5	2	3	0	1
女性	3,459	754	366	306	244	416	249	298	79	141	363	201	10	32
女性 20代	78	13	9	9	2	11	11	3	1	2	9	8	0	0
女性 30代	1,383	294	150	104	111	200	119	109	22	48	136	80	2	8
女性 40代	1,746	384	181	169	117	183	103	158	49	78	196	101	8	19
女性 50代	252	63	26	24	14	22	16	28	7	13	22	12	0	5

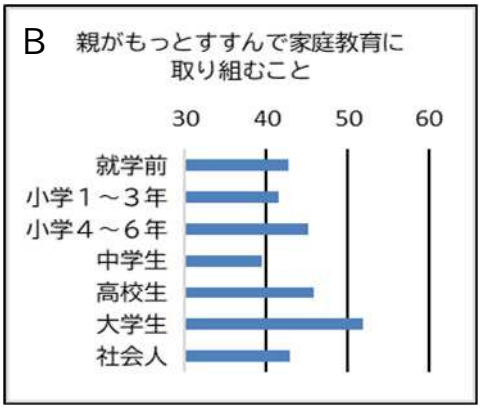
Ｑ８：　あなたは，家庭教育の充実のために，どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまる回答を３つまで選んでください。

「行政が支援すること」が48.7%で最も多い。次いで「親がもっとすすんで家庭教育に取り組むこと」が42.8%で，家庭教育をもっと充実させたいと考えている保護者の意識の高さも見てとれる。また，企業の理解による環境づくりが必要との回答も37.1%となっており，保護者は企業への理解・協力も求めている。

[%]





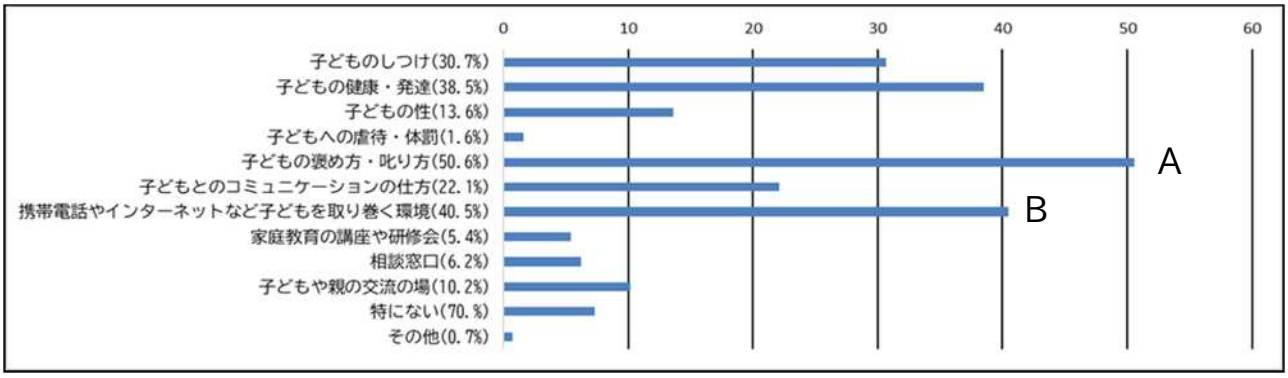


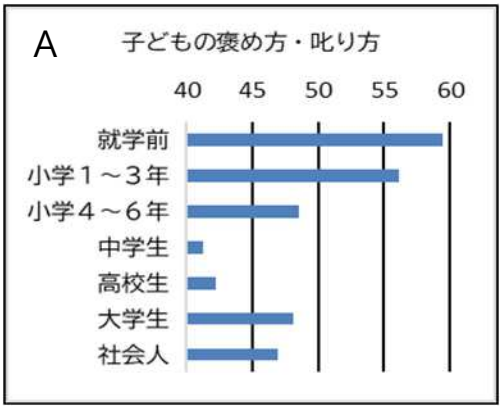
	実数計	親がもっとすすんで家庭教育に取り組むこと B	親以外の家族や親族が協力すること	子育てをしている仲間同士が助け合うこと	学校・幼稚園・保育所が家庭を支援すること	地域の人が家庭教育を応援し，関わること	行政が支援すること A	企業などが家庭教育をしやすい環境づくりに努めること	その他
□子どもの年代[%]									
就学前	1,324	42.8	16.2	28.3	25.5	13.1	51.6	37.9	1.0
小学１～３年	1,534	41.6	14.2	29.8	21.7	12.9	47.3	38.1	1.1
小学４～６年	1,279	45.1	13.0	29.7	16.3	12.4	46.8	36.1	1.4
中学生	1,286	39.5	12.1	32.9	17.0	10.0	47.9	36.1	1.4
高校生	439	45.9	10.6	32.1	19.3	8.7	46.8	35.3	2.8
大学生	97	51.9	13.0	18.5	16.7	1.9	33.3	40.7	3.7
社会人	98	42.9	8.2	24.5	12.2	18.4	40.8	49.0	4.1
□保護者の年代[%]									
20代	71	58.8	14.7	26.5	23.5	11.8	50.0	23.5	0.0
30代	1,280	39.7	15.5	29.4	23.4	11.8	49.8	39.5	0.8
40代	1,642	43.5	12.5	28.8	18.1	11.3	48.0	35.7	1.9
50代	280	43.9	13.6	38.6	15.9	14.4	47.7	37.9	0.8
□保護者の性年代									
全体	3,175	682	222	479	322	189	783	596	22
男性	242	60	15	26	16	12	61	48	4
男性 20代	2	0	0	1	0	0	0	1	0
男性 30代	64	14	4	6	4	1	18	17	0
男性 40代	128	33	9	11	9	6	32	24	4
男性 50代	48	13	2	8	3	5	11	6	0
女性	2,933	599	197	444	294	173	687	521	18
女性 20代	68	19	5	8	8	4	17	7	0
女性 30代	1,184	222	90	173	132	68	277	217	5
女性 40代	1,460	316	87	222	136	87	346	254	12
女性 50代	221	42	15	41	18	14	47	43	1

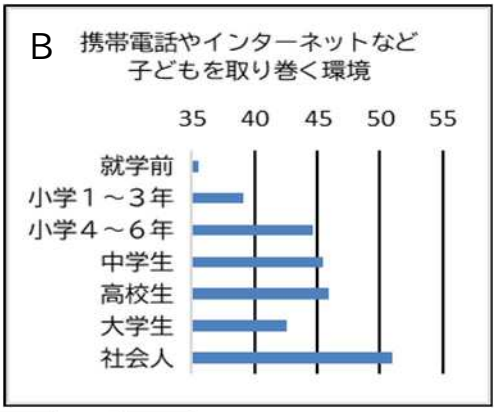
Ｑ９： あなたは，家庭教育についてどのような情報を知りたいですか。あてはまる回答を３つまで選んでください。

「褒め方・叱り方」や「携帯電話やインターネット」についての回答割合が高いことから，子どもとの関係性について情報を得たいという保護者の思いがわかる。また，小学４年生から高校生の子どもをもつ保護者は，携帯電話やインターネット等の子どもを取り巻く環境についての情報を得たいと回答した割合が高くなっている。

[%]







	実数計	子どものしつけ	子どもの健康・発達	子どもの性	子どもへの虐待・体罰	子どもの褒め方・叱り方 A	子どもとのコミュニケーションの仕方	携帯電話やインターネットなど子どもを取り巻く環境 B	家庭教育の講座や研修会	相談窓口	子どもや親の交流の場	特にない	その他
□子どもの年代[%]													
就学前	1,484	36.3	43.6	15.7	1.8	59.5	24.2	35.5	4.4	4.2	11.6	5.4	0.3
小学１～３年	1,744	34.4	38.5	16.6	1.5	56.1	23.5	39.1	5.3	4.9	9.6	5.4	0.4
小学４～６年	1,431	29.4	35.9	13.7	2.7	48.5	19.6	44.6	6.0	6.4	10.2	7.1	0.6
中学生	1,377	22.2	35.8	9.5	1.5	41.3	19.8	45.5	6.1	8.9	8.3	10.6	1.4
高校生	466	22.0	37.6	7.8	1.8	42.2	22.0	45.9	6.0	9.6	7.3	10.6	0.9
大学生	110	25.9	33.3	3.7	0.0	48.1	18.5	42.6	7.4	7.4	3.7	13.0	0.0
社会人	105	20.4	28.6	6.1	4.1	46.9	22.4	51.0	12.2	8.2	8.2	4.1	2.0
□保護者の年代[%]													
20代	77	52.9	35.3	11.8	5.9	58.8	32.4	29.4	0.0	5.9	14.7	5.9	0.0
30代	1,280	34.5	41.8	14.9	1.6	57.5	24.0	34.8	3.8	4.4	9.6	6.2	0.3
40代	1,575	27.5	36.0	13.6	1.6	46.0	21.2	43.9	6.1	6.4	10.8	8.1	1.2
50代	244	27.3	39.4	7.6	0.8	44.7	16.7	48.5	9.8	12.9	7.6	7.6	0.0
□保護者の性年代													
全体	3,546	493	619	218	26	813	356	651	87	99	164	117	12
男性	256	49	44	11	2	52	14	52	5	4	10	11	2
男性20代	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
男性30代	67	14	13	2	0	18	4	14	0	1	0	1	0
男性40代	134	22	23	6	2	26	7	25	5	3	7	6	2
男性50代	53	13	8	3	0	7	3	13	0	0	2	4	0
女性	3,290	433	553	196	31	743	331	573	79	92	147	102	10
女性20代	81	17	12	3	2	19	11	9	0	2	4	2	0
女性30代	1,334	193	241	86	10	332	140	192	23	25	55	35	2
女性40代	1,638	202	259	100	9	342	161	325	44	48	81	59	8
女性50代	237	21	41	7	10	50	19	47	12	17	7	6	0

家庭教育支援に関するアンケート

調査の実施方法

⑴　調査手法：鹿児島県電子申請システム及びＦＡＸによる

⑵　調査地域：鹿児島県全域

⑶　対象者条件：
Ａ：市町村家庭教育支援担当者
Ｂ：子育て支援センター従事者
Ｃ：ＮＰＯ法人等で家庭教育支援（子育て支援）従事者

⑷　標本抽出方法：

地区	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	姶良･伊佐	大隅	熊毛	大島	計
A	1	4	4	5	4	9	4	12	43
B	21	19	10	19	23	31	6	20	149
C	19	1	6	2	8	6	2	7	51
計	41	24	20	26	35	46	12	39	243

⑸　調査期間：令和４年12月12日(月)～12月28日(水)

2　回答者属性

⑴　回答件数：282件

⑵　回答者所属：
Ａ：市町村家庭教育支援担当者　：　50 件
Ｂ：子育て支援センター　：204 件
Ｃ：ＮＰＯ法人等で家庭教育支援（子育て支援）　：　20 件
所属不明　：　８件

⑶　所属エリア

鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	姶良･伊佐	大隅	熊毛	大島	不明	計
64	28	18	28	33	64	10	28	9	282

【Q1-1】家庭教育を進めるにあたって，子育て中の保護者は，どのような困り感をもっていると思いますか。【保護者の困り感】

Ａ：市町村家庭教育支援担当者

【子どもとの関わり方】（10）

・　子どもにどのように関わって良いのかわからない。子どもにどのように話して良いのか，何をどの成長段階で教えることが適当なのかわからない。
・　子どもの考えていることがわからない。子どもを叱った後にどう接したらいいかわからない。
・　具体的にどう子どもに関わればよいのか，そのノウハウが分からない，身についていない。

【保護者自身の余裕】（８）

・　仕事と育児の両立
・　共働き家庭が多く，子どもと向き合う時間がとれない。
・　生活にいっぱいいっぱいで日々の中でじっくりと子どもに伝えることが難しい。

【相談相手】（８）

・　時間，場所を気にせず相談できる相手が乏しい。
・　子育てや家庭教育について，困った時に気軽に相談できない。
・　身近に相談できる人が少なく，悩んだときに誰に相談してよいのか分からず不安になる。

【子どもの成長や発達】（６）

・　心身の発達に関して，他の家庭の子どもと比べざるを得ない状況が多い。
・　発達障害などについての知識を得たり，声掛けや寄り添う姿勢など実際に活用できるスキルを身につけたりする機会が少ない。
・　他の家の子どもと比較しての成長度合いや発達度合い

【家庭学習・メディア等】（４）

・　一番の困り事はＳＮＳではないかと思います。スマホ等も各家庭によって与える時期やルールが異なるため，交友関係を考えると家庭での管理の限界を感じます。
・　家庭学習について
・　不登校や問題行動

【家庭内の協力】（２）

・　父親の協力が得られにくい。
・　父母の考えが違うことで子どもが混乱したり，保護者が子どもに関心が薄いことで子どもが保護者に対して十分な信頼感がもてない場合があったりすると思います。

【その他】

・　保護者の都合で子どもの世話ができない時の緊急の預け先がない。
・　共働きやひとり親世帯が増え，ＰＴＡ活動に対して負担感や強制感を抱いている。
・　保育園入園や託児

Ｂ：子育て支援センター

【保護者の孤立感】(26)

・　ほとんど自分ひとりで育児をしている。ひとりでゆっくりする時間がない。
・　母親が乳幼児を育てるのが当たり前という家庭内の無言の圧力や責任を負わされる環境に伴う孤立感
・　子育てが孤育てになり閉塞感を感じ，苦しんでいる。

【子どもとの関わり方】(23)

・　子どもの基本的なしつけなどが行き届かないこと
・　家庭教育のやり方がわからない。その子にあった接し方がわからない。
・　子どもが親の言うことを聞かない。

【相談相手】（２０）

・　成長の不安や心配を気軽に相談できる場がない。
・　家庭だけではどうにもならないとき，どうしたらよいか悩む。
・　日々子どもの相手をしているので，大人同士で話がしたい。

【保護者自身の余裕】(20)

・　忙しくてスキンシップができていないのではないか。
・　共働き世帯が多く，経済的，時間的，身体的に親に余裕がないと思う。
・　まじめに頑張り，ストレスを感じ，疲れている保護者が増えている。

【預ける場】(12)

・　子どもだけを預けて保護者が自分の時間を作る所がない。
・　実家に頼れない子育てママの一時預かりの場所が少ない。
・　急に短時間預けたい時などの預け先がない。

【その他】

・　夫の家事育児への参加姿勢
・　地域の支援が届いていないことが多い。
・　第一子の子育てには子どもの成長の見通しがもてず，不安を抱えやすい。
・　保護者間の人間関係，子ども間の人間関係
・　情報量が多い昨今，何を信じていいのかわからなくなっていること
・　スマホの子守使用
・　健診などで療育を進められどう捉えていいか分からない。
・　不登校について
・　嫁姑問題

Ｃ：ＮＰＯ法人等で家庭教育支援（子育て支援）

【相談相手】

・　コロナ禍ということで子育てサロンや保健センターなどで同じように子育てをしている保護者同士が交流する場がなくなっていて，子育てに役立つ情報や困りごとなど共有する場がないこと。

・　相談相手不足
・　誰に(どこに)相談したら良いのかわからない。
【預ける場】
・　保育所へ入れず待機中
・　身内が近くにおらず，急な預かり場所がない。
【子どもとの関わり方】
・　２人以上の子がいるときの手助け
・　反抗期の子どもへの対応
・　宿題をしない，集中力が足りない。

所属不明

【子どもとの関わり方】
・　基本的な情報を持っていない。
・　しつけはいつから始めるのですか？等の質問を時々受ける。
・　コロナ禍ということもあり，同年齢の子どもとの交流の中で，挨拶やおもちゃの譲り合い（順番待ち）などの経験が乏しいと感じていたり，母親自身もママ友を作りにくい環境にあったりするようだ。
【相談相手】
・　緊急時に子どもを預けられる場所が少ない。
・　近くに相談できる人や場所がない。
【家庭内の協力】
・　祖父母世代と子育て世代の方針や価値観のギャップ
【保護者の孤立感】
・　SNS やインターネットの普及により，手軽に教育について知る機会は多い反面，情報過多で何が子どもにとってよい教育なのか悩んでしまう。また，核家族化やコロナ禍など，人との関わりが少なくなっている中で，他者に頼れずに子育てで孤独を感じて抱え込んでしまうこともある。

【Q1-2】家庭教育を進めるにあたって，子育て中の保護者は，どのような困り感をもっていると思いますか。【家庭教育支援に携わる者として困っていること】

A：市町村家庭教育支援担当者

【学びの機会】（10）

・　家庭教育自体についての認知度や理解度が低いため，家庭教育支援というと難しいものとして敬遠したがる他，親の学びを進めていきたいが，親のみの参加は非常に難しい。
・　家庭教育学級の充実を図りたいが，その目的等を含め各学校への研修の機会がとれていない。
・　コロナ禍，学びの場の確保と参加者を増やす工夫
・　支援員の研修がもっと必要

【相談対応】（８）

・　相談内容に対して，回答や指導について，多様な時代に回答した内容が適切であったのか疑問に残ることがある。
・　保護者が抱えている困り感や悩みをどのような支援に繋げていけばいいのか難しい。
・　ゲームやスマホ等により，生活リズムが乱れ，不登校になった後に相談がくるケースもありますが，既に深刻化した後なので非常に難しい。
・　どこまで家庭のことに突っ込んで話を聞いていいのか迷う。

【場や人材】（６）

・　支援の場やボランティア人材の確保
・　親同士のネットワークづくり

【療育の課題】（３）

・　保護者の能力や環境によって養育の困難さがある家庭に対して，どの程度のレベルを求めたら良いのか。

【その他】

・　課題を抱える家庭への支援だけを考えていけばいいのか。予防的な支援の取組をどう設定すればよいか。
・　家庭環境がそれぞれ違う（複雑化している）ため，一律（集団）での支援がしにくい。
・　スマホやタブレットに頼る環境。インターネット情報を信じている。

B：子育て支援センター

【相談対応】（23）

・　正しいことを教えてほしい，と言われる。子育てに正しいはないのにと考えているので困る。
・　気になる子どもや親が増えている。しかしそれは本質的なものなのか，環境やしつけからのものなのか，見分けが難しく，保護者にどう声をかけていけばいいか，時に悩むことがある。
・　『しつけ』はいつから始めたらいいか？と尋ねられることがある。ある程度まで育たないとしつけはできない，いらないと思っている親もいて驚くことがある。

【保護者や子どもとの関わり方】(21)
・　家庭の方針がわかりにくい。
・　家庭環境の問題に踏み入れられないもどかしさがある。
・　こちら側の思いと保護者の受け取り方が互い違いになってしまう事がある。
・　どこまで家庭内に踏み込んでいいのかわからない。
・　保護者との信頼関係を築くこと。
・　父親の育児・家事協力の意識を高められる具体策が考案できていない。
【場や人材】(15)
・　保育士の不足
・　相談に対応する人員が足りない。
・　支援センターの存在，認知度が低いと感じる。
【療育の課題】（８）
・　発達に関する質問は，とてもデリケートなことでどうしたらよいとか明確な返事ができない。
・　発達に関する保護者からの相談に保健センターを含む専門機関へ繋ぐことが難しい。
【学びの機会】（３）
・　家庭教育支援について学ぶ場が少ない。

Ｃ：ＮＰＯ法人等で家庭教育支援（子育て支援）

【保護者や子どもとの関わり方】
・　どこまで介入していいか。
・　若い親の自分の思い通りに育てたいという思い
・　保護者との考え方の相違，預けながらも子育ての意識はもってもらいたい。
【行政との関係】
・　補助金や助成金またそれに関する情報
・　個人情報保護などの観点からなかなか行政と情報を共有できない事
・　支援者と被支援者の世代間の価値観の違いによる理解不足
【場や人材】
・　感染対策等への気配り

所属不明

【療育の課題】
・　少し行動が気になる子ども達の療育相談を受けたとき，どのように話をすれば良いか。
【その他】
・　祖父母による関心の高さゆえの介入
・　社会的なマナーを子どもが守れないことはまだ理解できるが，保護者がそのことを気に留めてないことや保護者自身が守れていない時などにどう関わるべきか難しい。
・　家庭教育支援が必要と思われる家庭ほど機会もなく，支援に応じる様子がない。

【Ｑ２】家庭教育を進めるにあたって，子育て中の保護者は，どのような支援を望んでいると思いますか。

Ａ：市町村家庭教育支援担当者

【相談の場や人】(14)

・　個々のニーズに応じて，ネット等でいつでもどこでも相談できる窓口
・　各家庭で困っていることを気軽に話したり相談したりできる場
・　悩み相談ができる相手

【学びの場】(12)

・　子育ての具体的ノウハウ
・　父親向けの講座や子どもとの関わり方などの講座
・　子どもと一緒に参加できる子育て講座

【居場所作り】（９）

・　子どもを安心して預けて，リフレッシュできるような支援
・　急用があった場合，放課後子どもを預かってくれる施設
・　働いている間の子どもの居場所

【その他】

・　年齢に応じた子育て情報を知りたい。
・　各個人にあったオーダーメイド的な支援を望んでいる。
・　託児や家事代行など子育て支援サービスの充実

Ｂ：子育て支援センター

【相談の場や人】(51)

・　信頼・安心して気軽に話ができ，満足できるアドバイスとサポート
・　ゆっくり話を聞いてほしい。話し相手や同じ歳の子どもが集まれる場所など，楽しんで安全で遊びに行ける場所があること
・　いつでも悩みを聞いてもらい，不安等の解消・軽減ができる支援

【居場所作り】(35)

・　保護者のリフレッシュのための預かり保育
・　延長保育や時間外保育の支援，親の息抜き，話を聞いてもらえる場所，人
・　一時預かりをしてもらえる施設がもっと充実してほしい。

【交流の場】(30)

・　同世代の子どもたちとの交流の場，その保護者とコミュニケーションができる場を望んでいる。
・　親同士の仲間作りを求めている。
・　悩みや情報交換ができる交流会

【学びの場】(18)

・　具体的な家庭教育の方法を学ぶ機会
・　叱り方や褒め方を学ぶ機会

・　家庭ではできない母親向けの講座

【その他】

・　子どもの成長発達について見通しがもてるための正しい情報提供
・　家事支援，外出支援
・　子どもと離れてひとりで過ごす時間が欲しい。母親自身のリフレッシュ
・　地域全体で子育てを支援，見守る。
・　正解を求めている感じがします。
・　病児保育の充実

Ｃ：ＮＰＯ法人等で家庭教育支援（子育て支援）

【居場所作り】

・　両親が働いている時安心して預けられる子どもの居場所
・　子どもを預けたいとき，いつでも対応してくれる場所

【相談の場や人】

・　顔を見ずに相談できる場所(SNS の DM など)
・　話相手になってもらいたい。

【個別支援】

・　長期にわたる信頼関係に基づいた支援
・　子ども一人一人違うので個々に応じた対応

【交流の場】

・　多くの子育て仲間との交流を深めたい。

【学びの場】

・　親が学ぶ場，子どもが学ぶ場，親子で学ぶ場がほしい。

【その他】

・　子どもが安全に楽しく過ごせ，保護者は安心して仕事ができる環境

所属不明

【居場所作り】

・　一時保育の利用がしやすく母親が休息の取れる時間が欲しい。
・　安心して預けられる一時預かりの場所。

【子どもとの関わり方】

・　しつけの為の声かけの仕方や注意の仕方などこれで良いのか？と聞かれることがある。

【相談の場や人】

・　話を聞いてもらう，話を聞いてほしい。
・　不安なく育児相談ができる相談者や場所

【交流の場】

・　親子で参加できる遊び場，学びの機会が充実していること
・　同年代の親子と交流をして情報交換ができるような集まり

【Ｑ３】地域で家庭教育を支援するとしたら，どのような支援が望ましいと思いますか。（すでに行われている支援でもよい）

Ａ：市町村家庭教育支援担当者

【交流の場】(18)

・　地域行事等に家族で参加できるように声かけ
・　地域の親子会などで世代間交流
・　子育てサロンなど保護者が集い，語らう場づくり

【相談の場や人】(14)

・　個別支援より集団での相談会や教室
・　保護者の困り感など気持ちを吐き出す場や周りの方の意見や話を聞く機会
・　個人を対象とした相談会

【学びの場】（９）

・　保護者が学べる場所の提供
・　父親向けの講座
・　地域の実態に応じた家庭教育学級の推進

【その他】

・　子どもの一時預かり
・　お下がりバザーや子ども達自身がお店屋さんを出したりするようなイベントを地域の皆さんと一緒にできたらいい。
・　不登校支援（学校以外での居場所づくり）
・　放課後の子ども見守り

Ｂ：子育て支援センター

【交流の場】(91)

・　家庭にこもらずに外に出たくなるようなイベントの実施
・　高校生による夏休み宿題お手伝いママのための講座
・　自由に子どもが遊べる場

【相談の場や人】(28)

・　気軽に相談する事ができる場所
・　電話（24 時間対応）で話を聞いてくれる支援
・　子育て相談日の設定

【地域サポート】(22)

・　子育て中の方への声かけ
・　ファミリーサポートセンターの周知
・　地域の方による学校への送り迎えや見守りなど

【その他】

・　子育て講座，育児講座
・　地域子育て支援センターでの一時預かり

・　高齢者やご近所との交流会が必要だと感じる。
・　子ども食堂
・　家にこもりがちな親子のところに出向いていく支援

Ｃ：ＮＰＯ法人等で家庭教育支援（子育て支援）

【交流の場】
・　地域住民(多世代)とのつながりをもてる場づくり（本の読み聞かせ，子育て経験話）
・　子育て中(子どもが小さければ小さいほど)は特に孤立しがちなので，どんな人でもフラっと来れるような場所があるといいと思う。
・　学習ボランティア，公民館での子どもの行事，レクリエーション，映写会
【預かり保育】
・　学童保育施設などを拠点とした一時預かり

不明

【預かり保育】
・　産前産後や通院などで兄弟を預ける親戚や施設がなく，大変困っていらっしゃる方がいる。預かり事業が充実するといいと思う。
・　託児サービス
【相談の場や人】
・　ふれあい相談，個別相談，専門相談
【交流の場】
・　リフレッシュルーム
・　年齢別講座や遊びの時間
・　食育親子クッキング（行事食）

【Ｑ４-1】家庭教育支援に携わる者として，研修の機会はありますか。

Ａ：市町村家庭教育支援担当者

- 家庭教育支援員研修会
- 県生涯学習課県民大学講座
- 地区の地域自立支援協議会子ども部会研修会
- ゲートキーパー講座，子育て支援員研修
- 県家庭教育学級長等研修会
- 発達障害について，虐待について
- 県及び地区家庭教育サポート研修会
- カウンセリング研修
- 発達障がい関係
- 父親支援者のための勉強会
- 虐待のこと
- 人権教育研修会

Ｂ：子育て支援センター

- 子育て支援に関する研修
- 県主催の研修，市の保健師との研修，職場内研修
- 防災
- 子ども食堂などの研修
- 発達障害の子どもへの接し方，相談の受け方等
- ペアレントプログラム，母子保健研修会，発達に関する勉強会
- 幼児の発達
- 子どもの言葉の発達，親子の関わり方
- ファミリーサポート，家庭教育支援
- 民間による子育て支援員研修
- 口腔機能研修
- 療育についての講演，児童虐待等の対応
- 家庭教育支援員研修会＜基礎講座＞＜スキルアップ講座＞
- アンガーマネジメント
- 障がい児支援
- 保護者支援
- 利用者対応，相談対応，子どもの発達や遊びについて
- 子どものこころの問題に関する研修
- 傾聴
- 危機管理研修，メンタルヘルス
- 愛着形成の育み
- 救命救急講習

・　低年齢化する子どものメディア依存について等

Ｃ：ＮＰＯ法人等で家庭教育支援（子育て支援）

・　虐待に関する研修
・　カウンセリング研修
・　学校主催の研修会
・　親業訓練講座
・　救急，薬（ファミサポ・子育てサポーター養成講座）
・　学童における家庭支援，発達障がい児の支援

所属不明

・　鹿児島県子育て支援員研修会
・　性教育について
・　子育て中の親からの相談への対応
・　傾聴
・　職場内研修

【Ｑ４-2】今後受けてみたい研修

Ａ：市町村家庭教育支援担当者

- レクリエーション研修
- カウンセリング研修
- 具体的に家庭教育学級をどのように進めていくか。
- 支援の実際について
- 子どもへの関わり方
- 子どもの心理
- 支援が必要な子やその保護者への対応
- 家庭教育の基礎から学べる研修
- 支援チーム等の立ち上げ方
- 家庭教育相談員としての資質向上
- 療育に関する内容
- メディアとの付き合い方
- しつけの仕方
- 保護者の悩みや困り感を引き出せる話術

Ｂ：子育て支援センター

- 困り感のある子どもの保育について
- 虐待の見分け方について
- 保護者の心のケアについて
- 療育に関わる研修
- 愛着形成に関する研修
- キッズ心理学やアンガーマネジメント
- 子ども達と楽しくすごせる遊びゲーム等
- 保護者対応カウンセリング実践研修
- 障がい児研修
- 他施設の取組紹介
- 地域における家庭教育支援とは(具体的な事)
- 行政における地域とのつながりを生かした家庭教育支援体制について
- 傾聴の実際
- 父親支援
- 子どもの心理と大人のコミュニーケーション心理
- 特に心理の研修は受けたい。心に寄り添いたい，触れ合い遊びも学びたい。
- 親子スキンシップあそび
- ペアレントトレーニング
- 相談業務のノウハウ
- コーチング療育

・　絵本についての研修
・　アレルギーに関する研修
・　感染症に対する研修
・　スマホ育児の課題
・　ホームスタート
・　家庭での性教育
・　昔とは違う，今の子育てについて知りたい。
・　療育を必要とする子どもに対しての対応の仕方

Ｃ：ＮＰＯ法人等で家庭教育支援（子育て支援）

・　子どもの居場所づくり
・　SNS 講座
・　災害時のケア講座
・　ネットゲームなどの研修
・　発達障害への支援の仕方，引きこもり
・　直接支援されている方や当事者による講座や講演

不明

・　子どもの発達障がいや療育について
・　思春期相談
・　保育の現状と気になる子どもとの関わり方

令和５年度鹿児島県社会教育委員名簿

五十音順(敬称略)

委　員　名	役　　職　　等	備考
秋　丸　健一郎	県議会議員・文教観光委員会委員	
岩　越　悟　志	鹿児島市立甲南中学校校長（県連合校長協会中学校長部会長）	
岩　下　雅　子	鹿児島国際大学国際文化学部国際文化学科准教授	
岩　橋　恵　子	志學館大学名誉教授	議長
大　保　辰　美	つばき幼稚園園長（鹿児島市）（私立幼稚園協会代表）	
太　田　敬　介	鹿児島県ＰＴＡ連合会会長	
大　脇　治　樹	ＮＰＯ法人子育てふれあいグループ自然花理事長	
上川路　あずさ	公募委員	
酒　井　佑　輔	鹿児島大学法文教育学域法文学系法文学部法経社会学科准教授	
榊　　まゆみ	鹿児島市立武岡台小学校校長（県連合校長協会小学校長部会代表）	
塩井川　公　子	鹿児島県子ども会育成連絡協議会副会長	
下　江　嘉　誉	鹿児島県公民館連絡協議会副会長	
末　吉　元　気	鹿児島県青年団協議会常任理事	
手　嶋　道　男	鹿児島経済同友会教育・人材育成委員会運営委員	
徳　重　里　香	南日本新聞社編集局文化生活部副部長	
永　山　恵　子	ＮＰＯ法人地域サポートよしのねぎぼうず理事長	副議長
新　田　瑠璃子	姫城地区子育てサロン「すももクラブ」代表	
堀之薗　　泉	南日本放送テレビ業務部専任部長	
前　田　光　久	県立鶴丸高等学校校長（県連合校長協会長）	
山　﨑　奈美子	ＮＰＯ法人鹿児島県地域女性団体連絡協議会副会長	
脇　田　博　子	公募委員	

令和4年度鹿児島県社会教育委員名簿

五十音順(敬称略)

委員名	役職等	備考
池　畑　知　行	県議会委員・文教観光委員会	
西　園　香緒利	鹿児島市立大龍小学校校長（県連合校長協会小学校長部会長）	

委員の任期　　令和４年７月１８日～令和６年７月１７日